

**北陸新幹線敦賀延伸・
リニア中央新幹線名古屋開業に向けて
～住む人・訪れる人双方が誇れるまちを創る～**

**令和2年2月
金沢市**

目 次

1. 計画策定の背景	1
(1) 北陸新幹線金沢開業までの取組	1
(2) 北陸新幹線金沢開業後の取組	1
(3) 計画策定の目的	1
(4) 計画の推進	2
2. 新幹線延伸及びリニア開業により考えられる影響	3
(1) 北陸新幹線敦賀延伸により考えられる影響	3
(2) リニア中央新幹線名古屋開業により考えられる影響	8
(3) 金沢が目指す都市像	11
(4) 新幹線延伸・リニア開業影響対策検討会議での意見概要	12
3. 施策の体系	17
4. 施策の方向性	19
(1) 金沢の歴史・文化を活用し、魅力あるまちを創る	19
(2) M I C E開催・企業誘致の促進	21
(3) 市内産業の活性化とイノベーション	23
(4) 来街者増加と市民生活の良好な調和	24
(5) 転入者の地元定着・関係人口化、移住の促進	26
(6) 市内外の移動の円滑化・利便性の向上	27
(7) 新たな市内観光の楽しみを創る	28
(8) 広域周遊観光・滞在型観光の拠点化	30
(9) 金沢の魅力を伝え、広める	32
5. 参考資料	33
(1) 北陸新幹線敦賀延伸により考えられる影響	33
(2) リニア中央新幹線開業により考えられる影響	51

1. 計画策定の背景

(1) 北陸新幹線金沢開業までの取組

本市においては、平成 19 年(2007 年)に「金沢魅力発信行動計画」を策定し、金沢開業までの 7 年間にわたり、新幹線の開業効果を最大限に引き出すための施策を戦略的かつ計画的に実践するとともに、市民団体や経済団体などからなる新幹線対応金沢市民会議を立ち上げ、地域総ぐるみで、もてなし力の向上と機運の醸成を図ったほか、平成 22 年(2010 年)には、「北陸新幹線開業により懸念される影響対策会議」を設置し、開業により懸念される影響を最小限に抑制するための施策に取り組んできました。

また、経済団体や宿泊業界においても、様々なプロジェクトを展開し、開業後を見据えた誘客の促進や受入環境の整備に取り組んできました。

(2) 北陸新幹線金沢開業後の取組

平成 27 年(2015 年)3 月の北陸新幹線金沢開業により、まちに活気や賑わいなどの効果がもたらされる一方で、一部の地域では市民生活への影響も見られるなど、プラスの効果とともに、マイナスの影響が生じました。このため、平成 29 年度(2017 年度)には、「北陸新幹線開業による影響検証会議」を設置し、開業後の状況を検証し、プラスの効果は拡大を図り、マイナスの影響については解決に向けた施策を検討しました。

この検討結果に基づき、住宅宿泊事業の適正な運営を確保し、地域における良好な住環境の保全を図るために、平成 30 年(2018 年)3 月に関係条例を制定したほか、平成 31 年(2019 年)4 月から宿泊税を導入し、金沢の歴史・伝統・文化など固有の魅力をより一層高めるとともに、市民生活と調和した観光の振興を図る施策に取り組んでいます。

(3) 計画策定の目的

今後、令和 5 年(2023 年)の北陸新幹線敦賀開業や、令和 9 年(2027 年)のリニア中央新幹線名古屋開業など、高速交通網の整備に伴い、各都市間の時間的距離がさらに短縮され、人の流れや地域経済にも一定の影響をもたらすものと想定されます。

北陸新幹線の敦賀延伸やリニア中央新幹線の品川～名古屋開業がもたらす影響を踏まえ、本市の目指す方向性に沿うよう、高速鉄道整備による効果を最大限に引き出していくため、令和 2 年(2020 年)1 月に「新幹線延伸・リニア開業影響対策検討会議(※)」から提出されました報告書を基に各種施策を整理し、行動計画としてとりまとめます。

なお、計画の期間は令和 2 年度(2020 年度)から令和 8 年度(2026 年度)までの 7 カ年とします。

(4) 計画の推進

本計画は令和2年度(2020年度)から令和8年度(2026年度)までの7ヵ年で取り組むべき事項を示すものであり、各施策の推進は担当各課にて行いながら、必要に応じて庁内検討組織を設け、取組効果を把握、分析します。

今後、北陸新幹線敦賀延伸後のダイヤが判明すると見込まれる令和4年(2022年)頃には、本行動計画で示した影響について、より詳細に予測することが可能となります。

さらに、令和5年(2023年)に予定されている敦賀延伸後の時期を目処に、新たな課題やニーズなどの把握に努め、計画全体の取組み状況や施策の効果を検証し、必要に応じて、本計画を見直すこととします。

新幹線延伸・リニア開業影響対策検討会議 (※)

委 員

座 長	佐無田 光	金沢大学 教授
	板橋 史明	日本政策投資銀行 北陸支店長
	北村 哲志	金沢商工会議所 副会頭
	庄田 正一	金沢ホテル懇話会 会長
	武田 吉孝	日本銀行 金沢支店長
	波床 正敏	大阪産業大学 教授
	浜崎 英明	金沢経済同友会 代表幹事
	前田 洋明	西日本旅客鉄道株式会社 金沢支社長
	矢ヶ崎 紀子	東京女子大学 教授
	村山 卓	金沢市 副市長 (順不同)

事務局 金沢市都市政策局企画調整課

検討経過

令和元年 7月12日 第1回会議

令和元年 10月11日 第2回会議

令和元年 11月29日 第3回会議

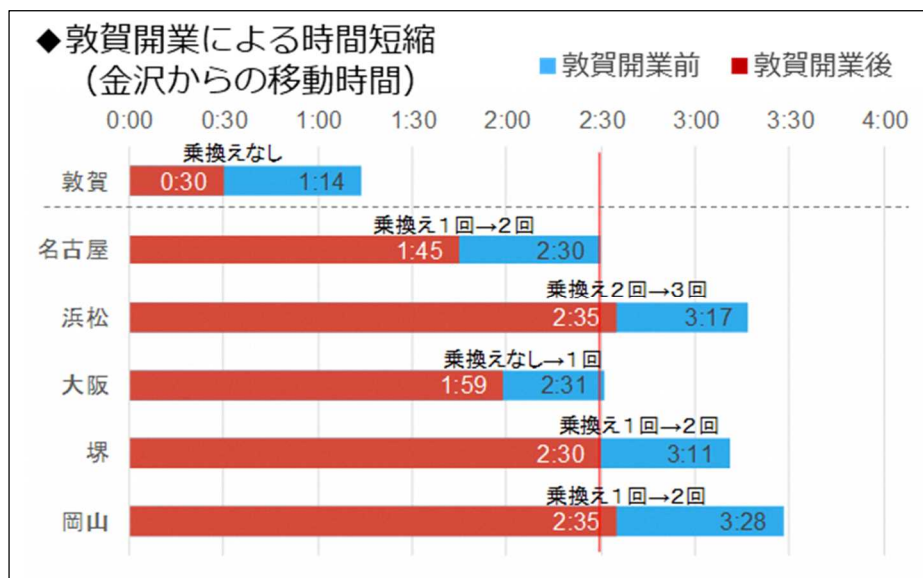
2. 新幹線延伸及びリニア開業により考えられる影響

(1) 北陸新幹線敦賀延伸により考えられる影響

① 基本的事項

- ・ 関西圏・中京圏及びその周辺地域への鉄道による時間距離が短縮する一方、敦賀などにおいて、乗継が発生又は乗継回数が増加します。仮に、あわせて関西圏の在来線特急の運行系統の見直し（運行区間の拡大など）が行われれば、関西空港や関西南部へのアクセスについては、利便性が向上します。
- ・ 時間短縮などに伴う人の流動への影響については、速達タイプをはじめとする北陸新幹線各列車の運行形態や、運賃割引の水準などによっても変化します。
- ・ 小松空港の国内線利用客（羽田便）が減少し、便数に影響が出た場合、羽田乗継を介した国際的な航空ネットワークへの接続が弱体化する可能性があります。他方、新幹線（小松駅）と空港が近接したゲートウェイが実現します。
- ・ 乗継による利便性低下、さらには高速道路網の整備などにより、特に中京圏について、高速バスへの一定の需要増加が見込まれます。
- ・ 令和元年度(2019 年度)台風 19 号の被害による北陸新幹線の運休は、本市にとって経済的に大きな損失をもたらしました。北陸新幹線が北陸の大動脈であることが改めて認識されるとともに、敦賀延伸後は、新幹線の運行障害の際におけるリダンダンシー（代替補完性）の確保が、これまで以上に求められることとなります。

〔北陸新幹線敦賀延伸による時間短縮（金沢発の場合）〕



出典：【新幹線所要時間】収支採算性及び投資効果に関する詳細資料、国土交通省（2012）
 ※その他の必要時間は時刻表を参照、敦賀駅での乗換え時間を10分と設定
 ※速達タイプの金沢～敦賀間の停車駅は、福井のみと想定

②観光分野に与える影響

- ・ 敦賀延伸による時間短縮効果に加え、キャンペーンなどにより北陸圏に再度注目が集まることで、関西圏・中京圏、さらには首都圏など他地域からも日本人や外国人の観光入込客数が増加する可能性があります。ただし、乗継による鉄道の利便性低下により、関西圏・中京圏での延伸のインパクトは限定的になる可能性もあります。
- ・ 一方で、さらなる観光客の増加により、まちなかを中心とした混雑がさらに発生するおそれがあります。
- ・ 金沢を拠点とした、南加賀や福井県内各地への観光需要の増加が見込まれます。あわせて、東海北陸道の4車線化や中部縦貫道の整備により、石川～富山～岐阜～福井～石川の移動がさらに容易となり、周遊ルートが強化されます。加えて、新幹線と高速道路網を組み合わせることで、若狭地方や丹後地方、さらには城崎などとの広域周遊ルートが生まれる可能性があります。

③宿泊産業・都市開発に与える影響

- ・ 当面、ホテルなどの宿泊施設の供給の拡大が続くとともに、グレードや内容の多様化も進みます。一方、既存宿泊事業者への経営に影響（定員稼働率の低下）を及ぼす可能性があります。これに伴い、開発適地周辺での土地利用の変化が続くとともに、本市への県外資本の流入も続く見込まれます。
- ・ 金沢を日中に訪れる観光客の中でも、加賀温泉郷など周辺地域における宿泊が増加し、金沢での宿泊が減少する可能性があります。敦賀開業までの間、宿泊施設の供給拡大の傾向が続くかは、稼働率やADR（平均客室単価）の変動なども含め、注視が必要です。
- ・ 老朽化したストックの更新や低未利用地の有効活用が進む一方、開発圧力やコインパーキングの増加により、景観を構成する金澤町家が消失するなど、良好なまちなみが喪失するおそれがあります。あわせて、一部の商店街などではミクストユース（用途の混合）が進展することが見込まれます。
- ・ スタッフ不足による「売り止め」の事象が現に生じており、新規施設の開業が今後も労働力不足に拍車をかけるとともに、新規開業のネックとなるおそれがあります。

④経済活動・M I C Eに与える影響

- ・ 敦賀延伸による北陸圏内や、関西圏・中京圏との時間距離の短縮は、出張、顧客の来訪などの利便性を向上させます。こうした時間距離短縮とあわせて、企業の北陸圏への注目により、拠点を新たに開設する事業者が現れる可能性があります。金沢開業時に比べ、インパクトは限定的と考えられます。
- ・ 関西・中京方面からの直通特急の廃止により、対首都圏に比べ、対関西圏・対中京圏の心理的距離が増加し、経済的・人的な結びつきが弱まるおそれがあります。
- ・ 北陸圏内の移動の利便性向上により、経済的な一体化が進展する可能性があります。例えば、日帰り出張による対応が増加することで（北陸の各都市間で）拠点の統廃合が行われるなど、企業活動に影響が及ぶ可能性があります。また、新幹線を利用した県をまたぐ通勤者が増加するなど、移動時間の短縮により働き方の選択肢が増えることが見込まれます。
- ・ 北陸圏に注目が集まることで、M I C E需要が増加する可能性があります。ただし、東海北陸ブロックレベルの学会などについては、福井など新規に延伸される地域での開催需要が一時的に高まるが見込まれます。

⑤市民生活に与える影響

- ・ 関西圏・中京圏を含め、大都市圏などとの間で、進学・就職時の転出者が増加するとともに、逆に関西圏・中京圏から金沢への進学者が増加する可能性があります。ただし、金沢開業時に対首都圏で見られた事象と比べ、インパクトは限定的と考えられます。
- ・ 広域交通網の拡充と、これまでの本市・本県における移住施策が相まって、大都市圏などからの移住者が、これまで以上に増加することが見込まれます。
- ・ 観光客の増加に伴い、市民と観光客が接触・交流する機会は一段と増加すると見込まれますが、観光客で混雑するまちなかへの来訪を、市民が忌避する傾向が強まるおそれがあります。
- ・ 簡易宿所などの増加により、日常生活などへの影響を懸念する市民が増加する可能性があります。他方、実際に問題となる事象が生じるかについては慎重な見極めが必要です。
- ・ 金沢以南の並行在来線である J R 北陸本線が I R いしかわ鉄道に経営分離されることで、これまで以上に、地域に密着したサービス供給や他の地域公共交通との有機的な連携が期待される一方、I R いしかわ鉄道の経営悪化が生じると予想されています。

※その他留意事項（大阪延伸）

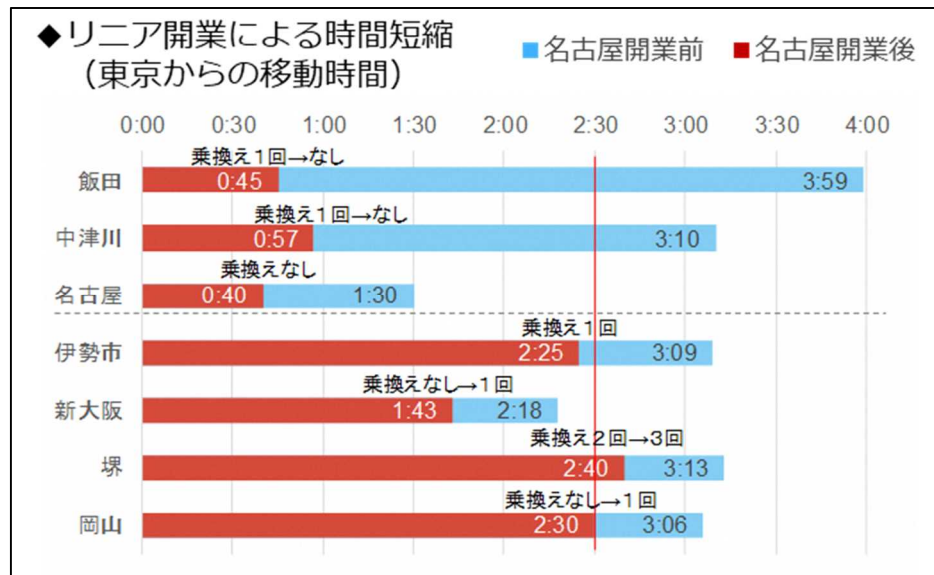
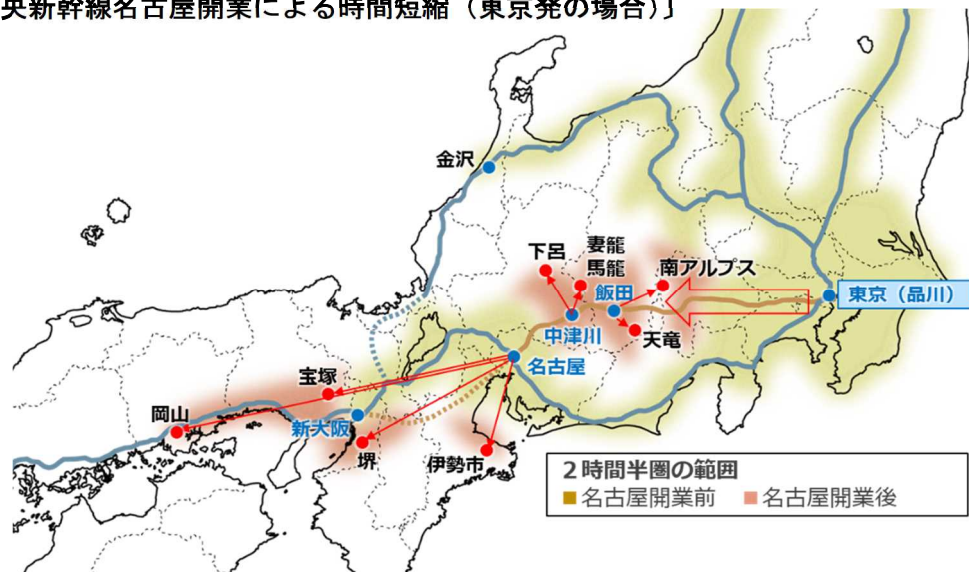
- ・ 本検討会議において直接的に議論する事項とはしていませんが、北陸新幹線の大阪までの全線開業が行われた場合、金沢～新大阪間の所要時間は、通勤圏ともいうべき1時間強となるほか、新大阪又は京都乗継により、多くの地域との間で、時間距離の短縮が生じます。
- ・ この場合においては、上記①～⑤で、敦賀延伸での「インパクトは限定的」としている項目を含め、対関西圏を中心に、人の流れや地域経済など、各分野で相当大きな影響が生じる可能性が高いと考えられます。
- ・ 本市としては、他の沿線各市とともに、北海道新幹線札幌開業（令和12年度（2030年度）末）頃までに大阪までのフル規格による全線整備が実現するよう、全力を尽くしてまいります。

（２）リニア中央新幹線名古屋開業により考えられる影響

リニア中央新幹線（品川～名古屋）の開業に際しては、前述した北陸新幹線の敦賀延伸による影響に加えて、下記の影響が生じることが考えられます。

- ・ 金沢と東京、大阪及び名古屋との時間距離に、直接的な変化は生じませんが、金沢とリニア中間各駅周辺地域との間の時間距離は、名古屋経由又は東京経由で短縮されます。
- ・ 首都圏と中京圏の結びつきが密になり、都市と都市、都市と地方がつながった新しいビジネススタイル・ライフスタイルを送る人々が誕生すると見込まれるとともに、こうしたスタイルが、全国的に浸透していく可能性があります。
- ・ 首都圏－中京圏の移動時間の短縮により、岐阜や長野を含め、広域的に流動する観光客の増加が見込まれ、金沢への呼び込みの可能性も広がります。
- ・ 首都圏から名古屋以西・以南への移動時間が大幅に短縮され、（首都圏発着の）観光・MICEの候補地について、新たな都市間競争が発生すると見込まれます。
- ・ 中京圏住民の観光ニーズが、大幅に時間距離が短縮された首都圏などに向く可能性がある一方、北陸圏は乗継などにより利便性が低下していることから、中京圏からの鉄道利用の誘客に影響を及ぼすおそれがあります。
- ・ 名古屋における都市開発が進み、名古屋を中心とした都市機能の集積が加速すると見込まれます。北陸圏の企業においても、中京圏を対象とした経済活動を強化する可能性があるほか、中京圏への人口流出が生じるおそれがあります。

〔リニア中央新幹線名古屋開業による時間短縮（東京発の場合）〕



出典：【リニア所要時間】長野県リニア活用基本構想、長野県（2014）

※その他の必要時間は時刻表を参照、リニア駅での乗換え時間を15分と設定

表 新幹線延伸及びリニア開業により考えられる影響のまとめ

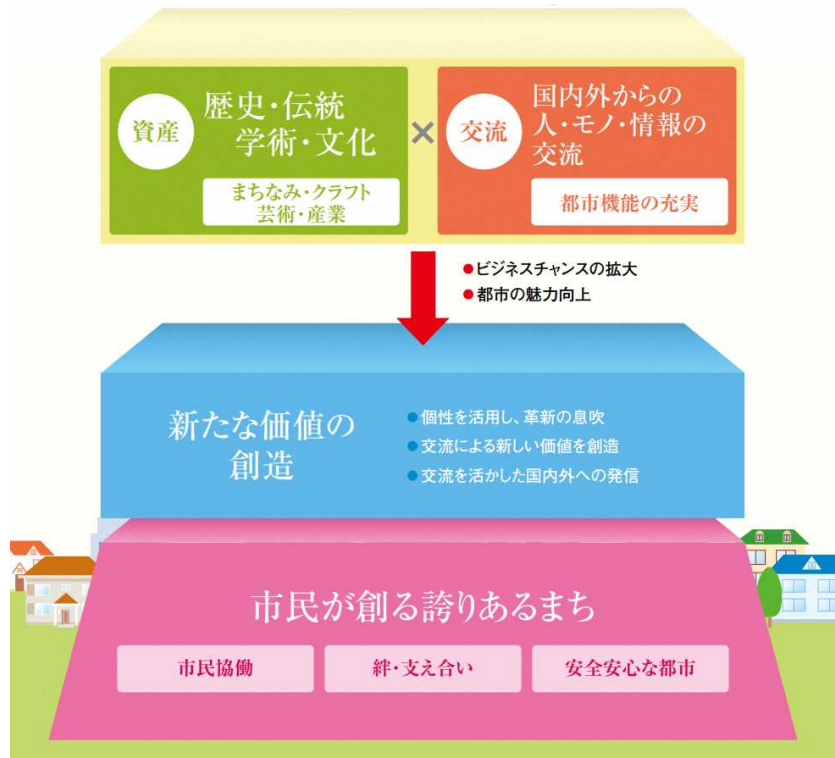
●新幹線敦賀延伸の影響 ●リニア開業の影響

- 北陸や金沢への関心の高まりと来街者の増加
- ●広域周遊観光の手段・エリアの充実
- 関西圏・中京圏との所要時間短縮。他方、敦賀乗継による心理的制約の発生
- 飛行機を介した広域交通網の縮小
- 外国人観光客の増加
- M I C E 需要の増加
- 宿泊施設の供給拡大と多様化
- 都市開発の加速(と伝統的な建築物の喪失)
- 観光業をはじめとした労働力の不足
- ●企業進出の加速や拠点の統廃合
- ●大都市圏への転出者の増加
- 進学や移住による転入者の増加
- 市民と観光客の交流の増加
- 観光客の増加による市民生活への影響の継続・拡大
- 並行在来線の役割の変化と経営への影響
- リニア沿線地域の発展と新しいビジネススタイル・ライフスタイルの創造・普及
- 都市・地域間競争の拡大

（３）金沢が目指す都市像

①世界の「交流拠点都市金沢」の実現 ～市民が創る誇りあるまち～

歴史を礎として、学術や文化などの個性を守り、磨き高めてきた金沢は、他都市に類を見ない資産を有しています。その資産を活用し、個性ある新たな価値を創造し続けるためには、人・モノ・情報の交流拠点になることが最も重要であり、本市は、世界の「交流拠点都市金沢」の実現をめざすこととしています。



②北陸新幹線開業による影響検証会議における方向性

- ・ 平成 29 年度（2017 年度）に開催した北陸新幹線開業による影響検証会議においては、今後取り組むべき施策の方向性として、
 - まちの個性に磨きをかける歴史・伝統・文化の振興
 - 観光客の受入れ環境の充実
 - 市民生活と調和した持続可能な観光の振興
- の 3 つが示され、これに基づき施策を実施しています。

（４）新幹線延伸・リニア開業影響対策検討会議での意見概要

【金沢の目指す方向性】

- ・ 北陸新幹線とリニア中央新幹線といった環状ネットワークの中で、金沢の位置づけを考える必要があります。学術・文化・歴史が都市をけん引し、その中に質の高い暮らしがあり、それを魅力に人々が集まり発展するのが金沢です。
- ・ 地方都市という枠組みにとらわれず、“拠点都市”として金沢を位置づけるべきです。
- ・ 金沢は観光都市ではなく、学術・文化・産業が先にある都市であり、これらの中に歴史や文化に基づく質の高い暮らしがあり、それを核に人々が魅力を感じ、都市が発展するという絵を描かなければなりません。
- ・ 海外からの個人旅行が増えていますが、今後どのような層を積極的に受け入れていくのか整理すべきです。「良いものを見合った価格で提供する」というのが金沢に適した考え方だと思います。

【金沢の魅力・まちづくり】

- ・ 金沢が持っている魅力を、来訪者に適切に伝えできていません。リピーターの増加に向け、食事や体験などのニーズを取り込んだ体験型の観光資源を活用し、金沢の持つ本物の文化を感じてもらう必要があります。また、その魅力を守り育て、継承していくことも重要です。
- ・ 歴史文化や伝統工芸などは金沢の魅力の基礎であり、広域周遊観光の拠点となるためにも、しっかりと魅力づくりをしていく必要があります。
- ・ まちなかを散策したり、地元の方がくつろぐカフェを見つけ入ることが、金沢の都市そのものを楽しむという、都市的観光の魅力です。
- ・ 金沢には路地裏文化があり、文化や人情を感じることができます。
- ・ 金沢に住んでいると感じる文化的な魅力は、観光客が手軽に触れることはできません。
- ・ 文化や生活の豊かさを強みとして発揮することで、金沢が広く憧れられる都市となると考えられます。
- ・ 武蔵ヶ辻から犀川大橋間は自動車交通量が多く、まち歩きの魅力がありません。特に南町周辺はビジネスとも観光とも付かない空間であり、方向性をもって整備を進めるべきです。
- ・ まず市民が文化に触れ、誇りを持っていただく必要があります。まち歩きも魅力に乏しい面があり、歴史文化について守るべきところは守りつつ、表通りにつ

いては都市開発の視点で整備などを考えていく必要があります。

- ・ 金沢単独で考えるのではなく、金沢がリーダーシップを発揮して周辺都市を巻き込み、北陸全体の魅力を向上させていく必要があります。また、金沢が（周辺都市の）皆からも誇りある都市となることが大切です。

【経済活動・M I C E】

- ・ 災害の少ない北陸圏はBCP（事業継続計画）の拠点として太平洋側の大都市に比べて優位であるため、その観点からの企業誘致も議論すべきです。
- ・ M I C Eは、M・I・C・Eでそれぞれ個別にアプローチを考える必要があります。とりわけ金沢は、インセンティブツアーの更なる受け入れが可能であり、積極的に誘致していくべきです。
- ・ 観光やビジネス、また、BCP拠点として機能するためには、中京圏との繋がりが重要です。
- ・ 観光やM I C Eだけでは都市間競争に巻き込まれるため、新産業の創造の視点が大切です。
- ・ 金沢にある資産を生かし、新しいものを“つくる”といった視点が必要です。目標像にある「対流」をきっかけとし、新しい価値・ものをつくっていく拠点となり、その先に観光があることが重要です。
- ・ 各施策の柱の連携を強化して、金沢の伝統産業・文化や産業構造をベースとした、新産業の研究開発拠点の創造を目指してはいかがでしょうか。
- ・ M I C Eなどの注目をきっかけに、地元企業や金沢に魅力を感じる人材を育成・集積させ、大学と連携しながら研究開発拠点として発展していく流れが考えられます。
- ・ 北陸新幹線金沢開業により、クライアントの交流が容易になるなど、ビジネス環境が向上しています。敦賀延伸による時間短縮により更なるメリットが期待されます。
- ・ ビジネスサービス（情報や管理、企画、広報、プロモーション）のような産業分野は、東京だけでなく新幹線沿線都市に広がっていく可能性があります。金沢においても、独自性を持って発展させることができるので、人材や企業の確保、インキュベーションが必要です。
- ・ ビジネスサービス部門は、既に金沢から域外に波及する産業となっています。東京にはない強み（例えば文化関連、ものづくり産業）を生かし、地元で事業展開ができる力を整え、拠点性のある発展ができるとよいでしょう。

- ・ 新規産業にも新幹線の利便性が享受できるよう、例えば、新規企業が金沢駅周辺でも借りやすいオフィススペースを提供できるとよいでしょう。

【市民生活】

- ・ 観光客に迎合しすぎるのではなく市民生活を向上させていき、市民協働で金沢の魅力を感じてもらえる必要があります。
- ・ 観光客の急増に伴い、観光公害など負の側面が顕在化しつつあります。市民生活を向上させつつ、市民と協力して、生活を通した金沢の魅力を感じてもらえるようにすべきです。
- ・ 近年、災害が激甚化し、頻度も増加しているため、想定外の事態をイメージし、来街者を含めた災害対策を検討する必要があります。

【交通】

- ・ 外国人旅行者の移動行動を踏まえ、福井や富山、能登と連携し、全ての交通モード（航空、クルーズ、レンタカーなど）を含めて考えていく必要があります。
- ・ 小松空港を含めた広域的な移動形態を考えてはいかがでしょうか。
- ・ ビジネスパーソンはレンタカーをあまり利用しないので、2次交通の検討で留意する必要があります。
- ・ 新幹線整備の効果については、並行在来線の活性化も重要であり、公共交通の利便性向上だけでなく、利用促進の観点からも取組を促進する必要があります。
- ・ まちなかでの歩きやすい歩行空間を確保するため、雨風に配慮した上屋整備などを進めると良いのではないのでしょうか。
- ・ 新幹線の通勤利用について促進するような視点があってもよいでしょう。
- ・ 市内における自動車利用や公共交通を利用するにあたってのマナー向上を促進する視点も必要です。

【観光】

（市内観光）

- ・ 観光客の金沢へのリピート率が低いため、リピーター増加に向けた視点が必要です。
- ・ 金沢の文化を尊重してくれる層をしっかりとターゲットにし、満足度を高めていく必要があります。

- ・ 夜間閉館してしまう文化施設で、夜の風情を楽しみたい方がいます。朝や夜間楽しめるナイトミュージアムなどのコンテンツがあることで、観光客が金沢をよく知るとともに、来館時間が分散したり、来館前後の新たな観光消費を生み出すことにつながると考えられます。
- ・ オーバーツーリズム対策には、場所や時間帯で観光客を分散させることが重要です。
- ・ 「いまだけ」「ここだけ」でみられるという観点で、季節や時間帯別の名所などをきめ細やかに整理し、SNSなどで紹介することで、観光客の分散が図られます。
- ・ 交通や飲食の支払い、観光案内などをスマートフォンで一元化できるような観光ツール（Ma a S）の導入を、IT企業と連携して取り組んではどうでしょうか。
- ・ ホテルが継続的に増加しており、今後、ホテル需要の開拓が必要です。
- ・ 英語を話せるホテルスタッフが不足しています。

（広域観光・その他）

- ・ 北陸圏内の移動時間が短縮されるため、県またぎの観光を考慮する必要があり、福井や富山、能登と連携することが重要です。
- ・ 外国人観光客に金沢を広域観光の拠点にしてもらうことが考えられます。
- ・ 敦賀延伸により対名古屋での乗換えが増えるため、観光利用の足かせとなります。
- ・ 昇龍道が名古屋との連携のポイントとなります。高速バスが主な移動手段であり、名古屋－北陸間の道路整備も進んでいるという点についても考慮していく必要があります。
- ・ 経済界では、広域連携で観光分野の戦略立案や事業に取り組んでいますが、産官学で一体感をもって進める必要があります、その機運づくりが必要です。
- ・ ホテルや旅行代理店では新しい来訪者の発掘や広域的な観光資源の開拓を進めています。
- ・ 令和7年(2025年)に大阪万博の開催を控えていることや北陸新幹線大阪開業を見据えて、大阪方面と連携した取組や関西圏でのプロモーションを進めていくことも重要です。

（１）と（２）で示した影響及び（３）に示した本市の都市像を踏まえると、新幹線延伸・リニア開業は、本市にとって、三大都市圏や北陸圏内をはじめとする国内外の地域の間で、人・モノ・情報の交流を活発化し、世界の「交流拠点都市金沢」を即地的かつ具体的に実現していく重要な機会といえます。

本計画では、こうしたスーパー・メガリージョン（リニア中央新幹線により三大都市圏が一体化することで形成される巨大都市圏）時代における金沢のポジションを再確認した上で、文化・学術・産業の振興、市民生活の向上などの施策の方向性を整理し、次頁以降のとおりと取りまとめました。

3. 施策の体系

【目標像】

～ 金沢と他地域とのネットワークによる
「対流」を活用しつつ、世界に開けた、
住む人・訪れる人双方が誇れるまちを創る ～

北陸新幹線・リニア中央新幹線を通じて実現される、新たな環状ネットワークとの関係性のなかで、改めて、世界の「交流拠点都市金沢」の実現を図っていくことが求められています。

そのため、三大都市圏、北陸圏内など他地域と金沢とのネットワークと、これによる「対流」を活用しながら、まちの個性をさらに高め、住む人・訪れる人双方が誇れるまちを創ることを目標像として掲げます。あわせて、「対流」を通じ、他の地域に金沢の創造する価値を波及させていくことや、北陸全体として魅力を向上させていくことも重要です。

これに基づく、施策の体系は、「文化・学術・産業」「市民生活」「交通」「観光」の4分野に分けられ、概ね次の9点に集約されます。

【文化・学術・産業】

（１）金沢の歴史・文化を活用し、魅力あるまちを創る

- ①民間活力を生かしながら、美しいまちなみを守り、創出
- ②市民や事業者の建築やまちづくりに関するリテラシーの向上
- ③金沢の歴史・伝統・文化に触れ、体験・実践できる環境づくり

（２）MICE開催・企業誘致の促進

- ①ミーティングやコンベンション、文化スポーツイベントに加え、インセンティブツアーの誘致と受入体制の構築
- ②立地の優位性（交通至便や災害リスクの低さなど）を生かし、企業の進出を促進
- ③多様なオフィス空間（サテライトオフィスなど）の確保

（３）市内産業の活性化とイノベーション

- ①新幹線による交流強化を生かし、地域企業や金沢に魅力を感じる企業家を育て、支え、集積
- ②AIなどの技術による企業、市民、観光客の利便性向上

【市民生活】

（４）来街者増加と市民生活の良好な調和

- ①まちの美化・治安維持に向け、指導・監視に加え、「ナッジ」を強化
- ②都市内の蓄積を生かした、歩いて楽しめる都市（ウォークブル都市）の推進
- ③市民のもてなし力の向上及び災害時における市民・来街者の安全の確保

（５）転入者の地元定着・関係人口化、移住の促進

- ①進学や移住による転入者に対する、移住支援や居住支援の充実
- ②金沢らしいライフスタイル（生活習慣）の継承、発信の強化

【交通】

（６）市内外の移動の円滑化・利便性の向上

- ①市内周遊の充実や混雑解消のため、まちなかの公共交通などの移動環境の不便を解消
- ②新幹線、飛行機、クルーズ、高速バス、レンタカーなどの多様な交通モードへの対応

【観光】

（７）新たな市内観光の楽しみを創る

- ①主要観光地だけでなく、市内各所での周遊や体験型観光などを充実し、新たな魅力を提供するとともに観光客を分散化
- ②季節や時間帯に応じた細やかな都市の魅力を発信

（８）広域周遊観光・滞在型観光の拠点化

- ①広域交通網の充実を生かし、多様な観光ニーズに対応
- ②まちの魅力や宿泊施設の充実を生かし、滞在型観光や二拠点生活の支援

（９）金沢の魅力を伝え、広める

- ①金沢の食や生活などの魅力や価値を伝えられるような見える化・情報発信の強化
- ②県外(国外を含む)でのプロモーションなどの充実

4. 施策の方向性

(1) 金沢の歴史・文化を活用し、魅力あるまちを創る

金沢は城下町として栄え、様々な伝統工芸や伝統芸能が受け継がれてきました。また、藩政期は「天下の書府」と称されるなど、現在も産業や学術拠点が集積する基となりました。あわせて、戦災や大きな災害を免れたため、美しいまちなみが現在でも多く残っており、歴史、文化や伝統に根差した市民生活が育まれ、内外の人々を魅了するまちを形成してきました。

金沢の強みである歴史、まちなみ、伝統・文化、学術などの固有の魅力は、本計画を進める上で最も重要な基盤となるものです。これらの魅力への市民の理解を深めるとともに、まちなみを守り育て、住む人・訪れる人双方が誇れるまちを創っていきます。

① 民間活力を生かしながら、美しいまちなみを守り、創出

北陸新幹線の金沢開業を契機に、まちなかでは宿泊施設の増加が続くなど、県外資本の流入も進み、開発適地周辺での土地利用の変化が加速しています。

一方で、魅力的な景観を構成する金澤町家などの消失が進み、コインパーキングといった低未利用地がランダムに発生するなど、これまでの「保存と開発の調和」が今後も保たれるか正念場を迎えています。

事業者と市民、市が密に連携しながら、エリアや状況に応じた柔軟な対策を進めていきます。

実施すべき施策

- ・ 保存と開発の調和に向けたまちづくりを推進
- ・ 金澤町家の再生・活用を促進する支援制度を充実
- ・ まちなかにおける用水の修景を促進
- ・ 犀川及び浅野川周辺の歩行環境を整備し、川筋景観の魅力と歩行者の回遊性を向上
- ・ 魅力ある眺望景観を形成する支援制度を充実
- ・ 修景樹木を計画的に植栽し、緑豊かな眺望景観を創出
- ・ まちなかの街路樹などの雪吊りを拡充し、金沢の冬の魅力を創出
- ・ 金沢駅もてなしドームの美化を推進し、快適な受入れ環境を創出

② 市民や事業者の建築やまちづくりに関するリテラシーの向上

金沢の魅力の一つである美しいまちなみは、個々の建築主である市民や事業者の理解と配慮があって初めて成り立ちます。藩政期の歴史的建造物を基調としつつ、近代

建築や金沢 21 世紀美術館などの現代建築が点在する、モザイクのようなまちなみを次世代に継承していくため、市民や事業者が、建築やまちづくりについて考え、積極的に関わることができる基盤づくりを進めます。

実施すべき施策

- ・ 将来の担い手となる子どもを対象に建築文化の裾野を広げるプログラムを実施
- ・ 金沢建築館における企画展等を通して、建築文化を発信
- ・ 金沢の建築をテーマにした旅行商品を造成
- ・ 金沢の建築の基本である「木」にこだわり、まちの随所に木材があふれる「木質都市・金沢」を創出

③金沢の歴史、伝統、文化に触れ、体験・実践できる環境づくり

金沢のまちなかでは観光客と接する機会が数多くあり、また、県外や国外に行けば金沢について尋ねられることもあります。子どもから大人まで全ての市民が、金沢の歴史・伝統・文化を理解し、自身の暮らしに取り入れたり、人に伝えたりできるような環境づくりを進めます。また、金沢独自の伝統工芸や食文化を将来に渡って伝承していくための取組も進めます。

あわせて、金沢の豊富な歴史、伝統工芸、食文化などの資源を生かし、訪れる人の多様なニーズに即して五感で触れる体験を幅広く提供するテーマ性あるコンテンツを再構築することで、新規来訪者だけでなく、リピーターも満足できるよう、それぞれの資源の付加価値を高めます。

実施すべき施策

- ・ 全国学生大茶会を通して、茶の湯文化や茶室の魅力を発信
- ・ 芸妓文化や茶屋文化の継承への支援を充実
- ・ 国立工芸館等と連携した伝統工芸の魅力発信・人材育成を推進
- ・ 工房の体験スペース拡充等に支援し工芸の新たな需要を創出
- ・ 金沢市アートホール改修等の芸術文化施設等整備を計画的に実施
- ・ 文化施設における展示機能等を充実
- ・ 国内外の若手料理人が和食を学べる環境を整備し「和食の聖地金沢」を実現
- ・ 宿泊施設における工芸品の展示支援を通して、金沢の工芸の魅力を発信
- ・ 西外惣構跡の整備を推進
- ・ 薦掛けの製作体験等を通して、冬の風物詩の魅力を広く発信
- ・ 文化とスポーツを組み合わせた交流事業を推進

(2) MICE開催・企業誘致の促進

北陸新幹線の金沢開業を契機に、金沢での国内外の学会やコンベンションの開催数が増加しており、敦賀延伸により、多様なMICEのニーズの高まりが期待されます。

また、北陸新幹線の敦賀延伸で再び北陸に経済的な注目が集まるほか、南海トラフ巨大地震が発生した場合など、金沢は太平洋側の広域災害時においても、影響が比較的小さく、リスクの分散化を図れることから、BCP拠点としての役割からの関心も期待でき、敦賀延伸やリニア開業はさらなる企業誘致の契機でもあります。

① ミーティングやコンベンション、文化スポーツイベントに加え、インセンティブツアーの誘致と受入体制の構築

ミーティング（M）やコンベンション（C）に加え、インセンティブツアー（I）についても誘致を進めるため、官民が連携して市場分析や情報発信を行い、本市の受入規模に応じたMICEを促進していきます。

その際、金沢の魅力を堪能してもらうべく、文化施設、寺社仏閣、町家などで特別な体験ができる「ユニークベニュー」も活用していきます。

また、金沢の土壌の深い文化とスポーツをツールに、新たな金沢ブランドの醸成・発信を推進していきます。

実施すべき施策

- ・バイヤー等が集結する海外見本市への出展や企業へのセールスを通して、インセンティブツアーの誘致を推進
- ・市内におけるコンベンション等開催の支援を充実
- ・スポーツを活用した新たなツーリズムコンテンツ等の造成や人材育成を通して、金沢版スポーツツーリズムを創出
- ・金沢ならではのユニークベニューの活用を推進

② 立地の優位性（交通至便や災害リスクの低さなど）を生かし、企業の進出を促進

将来的な北陸新幹線やリニア中央新幹線の全線開通により、本州中央部に首都圏、中京圏、関西圏を網羅した巨大環状ネットワークが構築され、金沢はその一角を担います。太平洋側で南海トラフ地震などの災害リスクが高まるなか、金沢はリスク分散を図れる地域に当たるとともに、優位な高速交通網を有していることから、改めてBCP拠点としてPRを進めます。

実施すべき施策

- ・ 中京圏・関西圏の企業誘致を促進
- ・ 工業団地の整備を推進

③多様なオフィス空間（サテライトオフィスなど）の確保

ビジネススタイルやライフスタイルの多様化により、シェアオフィス、サテライトオフィスといった小規模で柔軟な運営ができるオフィス環境へのニーズが高まっています。また、一般的なオフィスについても、就業人口のパイの大きさなどから、現在、新築のオフィスビル供給は少ないものの、今後も一定の更新がなされていく必要があります。市内の需要だけでなく、北陸新幹線延伸による大都市圏との繋がり強化により、金沢の魅力ある都市環境を生かした多様な「働くための空間」を提供します。

実施すべき施策

- ・ まちなかにおける多様なオフィス空間を充実
- ・ 金沢 AI ビレッジを形成し、まちなかでのクリエイター等の活動を促進
- ・ ITビジネスプラザ武蔵での多様な分野の人材交流と集積を促進

（３）市内産業の活性化とイノベーション

北陸新幹線の金沢開業により、首都圏や世界との時間距離が近くなったことで、人・モノ・情報の流れが活発となっており、今後の延伸で、こうした他地域との「対流」がさらに促進されます。これにより、本市に拠点を置くビジネスサービス業（コンサルタント、デザイン、ソフトウェアなど）の商圈拡大が期待されます。また、金沢の歴史に裏打ちされた産業分野での創造力、伝統工芸から現代美術の幅広い分野を網羅する文化力、高等教育機関が集積する知力など、金沢が持つ資産やポテンシャルを最大限に活用し、市内産業の活性化とイノベーションを生み出していく必要があります。

① 新幹線による交流強化を生かし、地域企業や金沢に魅力を感じる企業家を育て、支え、集積

近年、金沢市では若い起業家が徐々に輩出されるとともに、文化や自然が身近な金沢の生活に魅力を感じる創造的な人材が移住していることから、金沢の拠点性・利便性を生かしながら地場企業・起業家などを支援し、スタートアップが盛んでチャンスのあるまち金沢の実現を図ります。また、大都市圏などの専門的人材を地域企業とマッチングさせることにより、地域企業の生産性向上にもつなげていきます。

実施すべき施策

- ・ 価値創造拠点を整備し、共創・成長するコミュニティの形成やクリエイターの育成、起業家の支援等を充実
- ・ 5G技術を市民生活や企業活動で応用する事業を実施
- ・ デジタル技術を活用し、子どもの知的探究心を刺激する体験教室を開催
- ・ 小中高生を対象とした起業体験プログラムを実施

② AIなどの技術による企業、市民、観光客の利便性向上

歴史的なまちなみや文化が今に残る金沢において、AIやIoTなど最先端技術を用いることで、市民の日常生活や事業者の生産・営業活動における不便や課題を解消しながら、豊かな暮らしを実現するとともに、観光客の利便性・回遊性を向上するなど、産学官が協働した最先端技術の社会実装を図ります。

実施すべき施策

- ・ AI等技術を活用し、市民と観光客双方の利便性・回遊性を向上
- ・ 最先端技術を有する研究・教育機関等を活用し、伝統工芸と最先端技術を融合

（４）来街者増加と市民生活の良好な調和

北陸新幹線の敦賀延伸により、観光入込客が再び増加した場合、市街地環境の悪化が懸念されます。金沢開業を契機に、地域住民や事業者、市が一体となって対策を進めていますが、今後、金沢が持続的な観光振興を図るためには、市民生活への影響を緩和し、また、観光に対する市民の理解を深めていくことが大切です。

あわせて、人口減少や高齢化が進んだ社会において、持続的に成長する成熟都市の実現を目指すためにも、来街者と市民一人一人が、居心地良く、歩きたくなるまちなかを形成することが必要です。

① まちの美化・治安維持に向け、指導・監視に加え、「ナッジ」を強化

市では、たばこ、ごみなどのルール遵守やマナー向上に取り組んできましたが、一部にはルールやマナーに沿わない行為がみられ、そのことが良好な市民生活や醇風美俗を乱すことにもなっています。他方、それらの行為は、ルールの単純な不知による場合も多く、必ずしも行為の主体が観光客とは限らないという点にも留意する必要があります。

また、簡易宿所の増加とともに、近隣住民にはトラブルを懸念する声も生じていることから、地域に調和した簡易宿所が求められています。

対策として、監視や指導を引き続き行いつつも、来街者や市民一人一人が自発的に、ついまちの美化に向け行動を変えたいくなるよう、「ナッジ」を活用した仕組みづくりも進めます。（ナッジ：例えば、情報提供の工夫など、簡単なきっかけにより人の行動変容を促す要素）

実施すべき施策

- ・ 官民連携の会議において新たな計画を策定し、持続可能な観光を振興
- ・ 地域との協働によるまちづくりに向けて、まちづくり協定の締結を推進
- ・ 観光客や外国人旅行者に対するマナーを啓発
- ・ ぽい捨てや路上喫煙等の防止により、市民が快適に暮らせる美しいまちづくりを推進
- ・ 未許可・不適合広告物への指導を強化
- ・ 簡易宿所等の適性な運営の指導を強化
- ・ 防犯カメラの適正な維持管理による安全で安心なまちづくりを推進

②都市内の蓄積を生かした、歩いて楽しめる都市（ウォーカブル都市）の推進

居心地良く歩きたくなるまちなかを形成することが、多様な人材の出会い・交流によるイノベーション、地域消費の拡大、豊かな生活などを実現し、まちの魅力・磁力・

国際競争力の向上といった好循環を生みだしていくことが期待されます。その際、市民が主役となりまちを楽しみながら、来街者がバランスよく交じる姿が理想的です。

歴史的な建造物や市民の営みを感じられる市街地環境を生かし、雨雪時の歩きやすさにも配慮しながら、まちなかを心地よく、多様な人や用途が共存する、ウォークアブルな（歩きたくなる）人間中心の空間へ転換することで、市内外の様々な人々を惹きつけ、持続的に成長する成熟都市を実現します。

実施すべき施策

- ・ 犀川周辺における新たな賑わいを創出
- ・ 駅西広場やまちなかの広場・公園等の公共空間を官民連携により日常的に活用
- ・ 近江町市場等のまちなかでの交流スペースを設置
- ・ 歩道・アーケードの整備や案内板改修によるまちなかの歩行環境を向上
- ・ まちなかの回遊性を高め賑わいを創出する無電柱化を推進
- ・ まちなかの緑地等にベンチ等を設置し、市民や観光客が憩える環境を整備
- ・ 中心市街地における回遊性などの都市機能向上を図るため、事業化に向けた施策を地域住民と協働で検討

③市民のもてなし力の向上及び災害時における市民・来街者の安全の確保

北陸新幹線の敦賀延伸により、市民と観光客が接する機会がますます増加していきます。市民と観光客とのやり取りが、金沢に対する印象を大きく左右することもあり、住む人・訪れる人双方が誇れるまちを創るために、交通施設、街角、飲食店などにおいて、土地に不慣れな他者に対する気遣いが求められます。そうしためぐり逢いは、市民にとっても、「観光公害」という一括りな印象を和らげる良い機会となります。

また、近年、災害の激甚化が顕著であり、災害時や緊急時の体制整備が一段と重要になっています。正確な情報提供と迅速な避難、十分な備えが必要であり、来街者だけでなく市民の安全確保と一体となり、対策を進めます。

実施すべき施策

- ・ ゲストハウスが行う地域住民と宿泊客との交流事業を促進
- ・ 文化スポーツイベントを通して、市民と観光客の交流を促進
- ・ 災害時の一時帰宅困難者等に対応した備蓄品を配置するとともに、避難所を整備し、旅行者の安全・安心を確保
- ・ 多言語対応コミュニケーションツールを活用した災害情報・避難情報の迅速な提供を実現
- ・ 文化財建造物等の火災予防対策を強化
- ・ 簡易宿所等に対する防火管理研修会を開催
- ・ 宿泊施設の従業員に対する救命講習会を開催し、応急救護体制を強化

（５）転入者の地元定着・関係人口化、移住の促進

北陸新幹線の金沢開業により関東圏との間の転出入が増加したことから、敦賀延伸時においても、金沢開業時ほどではないにせよ、関西圏・中京圏への転出増加が考えられます。一方、県内の大学においては、他圏域からの進学者が増加しており、卒業後の金沢への定住が期待されます。

また、観光などを通じて金沢の人の魅力や文化に惹かれた方々も増加することで、金沢との多様な「対流」、すなわち関わり方が生まれ、将来的な移住や定住につながることも期待されます。

①進学や移住による転入者に対する、移住支援や居住支援の充実

金沢の大学に進学した学生が、学生時代に金沢の歴史や文化、伝統を感じる暮らしを満喫し、卒業後に金沢定住を選択してもらうきっかけとなるよう、生活支援や就職支援を行います。また、県外への転出入も流動的になる可能性があることから、U J I ターンの促進に向けて、個々の状況に応じた支援や情報提供を進めます。

実施すべき施策

- ・金沢における移住者ネットワークを構築し、移住者と移住希望者との交流を促進するとともに、移住者の視点による情報を発信
- ・首都圏・関西圏における移住フェアに石川中央都市圏として出展
- ・まちなかで学生が文化に触れる機会を充実

②金沢らしいライフスタイル（生活習慣）の継承、発信の強化

移住者が魅力を感じる、金沢の歴史や文化、伝統に基づく生活習慣は、旅行だけでは断片的にしか実感できず、丁寧に伝えられる工夫が必要です。

また、旅行中に体験した金沢での生活習慣をさらに理解してもらえるきっかけを作り、金沢の情報発信の担い手、次いでリピーターとなることを期待します。

実施すべき施策

- ・転入者に対する、金沢らしいライフスタイル（生活習慣等）の発信を強化
- ・観光客に対する「旅アト（金沢ファン）」を推進

（６）市内外の移動の円滑化・利便性の向上

北陸新幹線の敦賀延伸により、国内外から多くの観光客やビジネス客が金沢を訪れる環境がさらに高まります。来訪者や市民がともに円滑に移動できる環境を整えるため、過度に自動車（マイカー）に頼らず多様な交通手段（鉄道、バス、タクシー、シェアサイクルなど）を組み合わせ、市内回遊ができる仕組みを整えると同時に、金沢が日本海側のゲートウェイとして、クルーズや飛行機などの広域交通と連携した交通体系を確立します。

①市内周遊の充実や混雑解消のため、まちなかの公共交通などの移動環境の不便を解消

路線バス・シェアサイクル・タクシー・カーシェアなどが、交通モード相互や観光施設などと連携したサービスを提供し、ストレスのない移動を実現することで、金沢全体としての都市内移動に対する満足度を高めます。また、各サービスについても、機能の拡充やアプリケーションなど新技術の活用などを進め、来街者と市民一人一人の利便性向上を図ります。

実施すべき施策

- ・フリー乗車券の利便性を向上
- ・まちなか交通ガイドの多言語化を推進
- ・都心軸の交通円滑化及び安全な歩行環境を確保
- ・利便性の高い公共シェアサイクルシステムを構築し、まちなかの回遊性を向上
- ・新技術を活用した移動サービス（MaaS等）の動向を調査し、金沢型次世代交通サービスのあり方を検討
- ・主要観光スポット周辺バス停の待合環境を改善

② 新幹線、飛行機、クルーズ、高速バス、レンタカーなどの多様な交通モードへの対応

インバウンド需要の拡大により、小松空港における国際線、金沢港でのクルーズ船の発着などが増加しており、外国人観光客による高速バスやレンタカー利用も多く見られます。金沢で発着する交通モードが多様化しており、北陸新幹線の敦賀延伸に向けて広域周遊観光の拠点としての機能を高めるため、連携を進めます。

実施すべき施策

- ・旅行会社とのタイアップやセミナーの実施により、フライト&クルーズやレール&クルーズの定着を促進
- ・クルーズターミナル整備を契機としたベイエリアの回遊性を向上
- ・金沢外環状道路の整備を推進

（７）新たな市内観光の楽しみを創る

北陸新幹線の敦賀延伸やインバウンド需要の拡大により、今後もさらなる観光入込客の増加が予想されます。多様な観光ニーズへ対応しつつ、また、観光地周辺での混雑緩和といった市民生活との良好な調和に向け、観光客を分散させる新たな市内観光の楽しみづくりが必要です。

①主要観光地だけでなく、市内各所での周遊や体験型観光などを充実し、新たな魅力を提供するとともに観光客を分散化

市内の代表的な観光施設や文化施設は、利用者数が北陸新幹線の金沢開業後は高水準で推移しており、一部の週末には、地域住民や観光客が心地よく過ごすには難しい状況が生じています。さらに増加する可能性もある観光入込客を受け入れるためには、新たな市内観光の提案による分散が不可欠で、金石・大野地区、寺町周辺や湯涌温泉での広域的な周遊、卯辰山や大乘寺公園、金沢港など新たなスポットの魅力向上などを進めます。

実施すべき施策

- ・ 金石・大野地区の活性化を図り、観光客の分散化を促進
- ・ 最先端技術を活用し、観光客によるまちなかの混雑を緩和
- ・ サイクリングツアーを促進
- ・ 犀川周辺における新たな賑わいを創出（再掲）
- ・ 駅西広場やまちなかの広場・公園等の公共空間を官民連携により日常的に活用（再掲）

②季節や時間帯に応じた細やかな都市の魅力を発信

面的な観光客の分散だけでなく、朝や夜の時間帯、冬季など、観光客が少ない時間帯の魅力向上により、需要の平準化が期待されます。観光客のニーズは多様化しており、観光を楽しむ時間帯や季節の拡大により、新たな魅力が創出され、分散が促されることが期待されます。

実施すべき施策

- ・ 金沢の夜の魅力を発信し、ナイトツーリズム等の滞在型観光を促進
- ・ 金沢の多彩な伝統文化を披露するナイトシアターを開催し、夜の賑わいを創出
- ・ 音楽やダンス等のパフォーマンスにより金沢駅周辺の夜の賑わいを創出
- ・ 公共空間等における照明設備の整備を推進し、魅力的な夜間景観を創出

- ・ 卯辰山公園の夜間照明設備を整備し、夜の彩りを創出
- ・ ウインターシーズン等の観光コンテンツを充実
- ・ ビッグデータやＩＣＴ等を利用した観光動態（流動）を分析し、新たな魅力を創出

（８）広域周遊観光・滞在型観光の拠点化

北陸新幹線の敦賀延伸により、南加賀地域や福井県内各地への観光需要が高まり、また、東海北陸道の４車線化や中部縦貫道の整備により、石川～富山～岐阜～福井～石川の周遊ルートが強化され、広域周遊観光のニーズが高まることが予想されます。

また、リニア中央新幹線の整備を受け、首都圏と中京圏の結びつきが密になり、都市と都市、都市と地方がつながった新しいビジネススタイル・ライフスタイルを送る人々が誕生すると見込まれるとともに、こうしたスタイルが、全国的に浸透していく可能性があります。

金沢とその周辺都市の観光資源を結ぶ広域交通網、供給が拡大する充実した宿泊施設を生かし、産学官が連携しつつ広域周遊観光や滞在型観光の入込客への対応を進めます。

① 広域交通網の充実を生かし、多様な観光ニーズに対応

金沢の周辺県・市町には、自然・温泉などの資源が充実しており、また、金沢とは異なる背景を持つ特徴的な歴史や文化が数多くあります。これに加え、北陸新幹線の金沢開業により、三大都市圏からのアクセスが格段に向上し、金沢を結節点とした二次交通が拡充し、広域観光ルートの選択肢が多様化してきました。関係自治体、民間事業者、高等教育機関などとともに、観光産業の強化に一体感をもって取り組み、旅行商品に厚みや魅力を加え、北陸の玄関口として、金沢を拠点とした広域観光の推進やプロモーションにリーダーシップを発揮していきます。

実施すべき施策

- ・ 金沢版DMO（金沢市観光協会）の組織体制を強化
- ・ 北陸・飛騨・信州３つ星街道の誘客を推進
- ・ 杉原千畝ルートの誘客を推進
- ・ 富山県西部との広域観光を推進
- ・ 敦賀延伸沿線都市との連携プロモーションを推進
- ・ 石川中央都市圏域の観光資源を生かし、広域周遊観光を推進

② まちの魅力や宿泊施設の充実を生かし、滞在型観光や二拠点生活の支援

働き方改革などにより、多様な生き方・働き方の実現が後押しされるなか、様々な場所で、仕事（ワーク）と休暇（ヴァケーション）を組み合わせた「ワーケーション」などの、自由な滞在や移住が広まりつつあります。金沢は観光資源、宿泊施設や都市型インフラが整い、ビジネスと観光を両立できる環境であることをPRし、柔軟な働き方・過ごし方ができる環境整備を進めます。

実施すべき施策

- ・おもてなし力を高める宿泊施設の改修を支援
- ・中・長期滞在する訪日外国人等を対象としたワーケーションを推進

（９）金沢の魅力を伝え、広める

国内外の様々な地域の方が金沢を訪れるようになっており、金沢の歴史や文化、伝統の奥深さを知り、感動していただけるように、効果的な情報提供とプロモーションを進めます。その際、レスポンシブル・ツーリズム（責任ある観光）という考え方の下、観光客の方々には、来訪に際し、金沢の文化や慣習に敬意をもって接していただくなど、市民と観光客が将来にわたって金沢の価値を共有していく必要があります。

① 金沢の食や生活などの魅力や価値を伝えられるような見える化・情報発信の強化

北陸新幹線の金沢開業を契機に、金沢に初めて訪れる方が増えています。金沢の歴史や文化、伝統から育まれた魅力について情報発信するとともに、体験してもらうことにより来街者に金沢の魅力や価値を理解してもらい、金沢の食や生活などの豊かさを感じていただき、金沢ファンを増やしていきます。

実施すべき施策

- ・ 金沢中央観光案内所を活用した情報発信を強化
- ・ 来街者等が手軽に利用できる公衆無線ＬＡＮ環境を充実
- ・ 「加賀藩武家文化周遊ルート」の魅力を発信
- ・ 食物アレルギー等に対応した店舗情報を周知
- ・ 首都圏や関西圏において、金沢産食材を使用したメニューを提供する「金沢フェア」を開催

③ 県外(国外を含む)でのプロモーションなどの充実

北陸新幹線の敦賀延伸により金沢への注目度が高まる関西圏・中京圏からの誘客プロモーションを進めます。旅マエ、旅ナカ、旅アトといった旅行者のシーンに応じた情報を提供し、旅行の満足度を高め、旅行での多様な体験がＳＮＳなどで拡散される仕掛けづくりを進めます。

実施すべき施策

- ・ 東京オリンピック・パラリンピック大会期間中に東日本の自治体と連携した誘客キャンペーンを実施
- ・ 欧米豪における誘客プロモーションを強化
- ・ 関西圏からの誘客プロモーションを強化
- ・ 敦賀延伸沿線都市との連携プロモーションを推進（再掲）

5. 参考資料

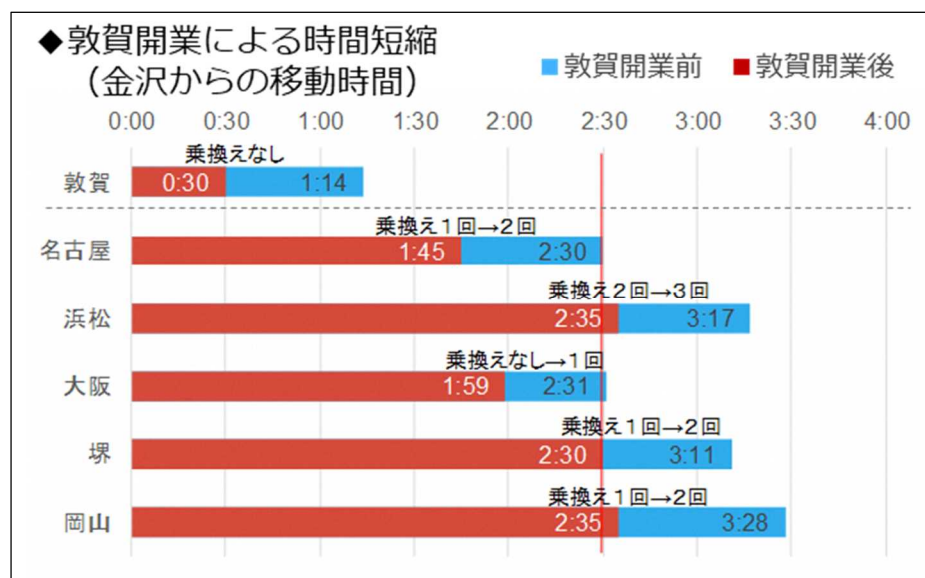
(1) 北陸新幹線敦賀延伸により考えられる影響

■広域交通

①敦賀延伸による移動時間・乗換えの変化

- ・金沢-敦賀間が約 30 分短縮により、名古屋以東や大阪周辺の 2 時間半圏の都市が増加。

〔北陸新幹線敦賀延伸による時間短縮（金沢発の場合）〕



出典：【新幹線所要時間】収支採算性及び投資効果に関する詳細資料、国土交通省（2012）
 ※その他の必要時間は時刻表を参照、敦賀駅での乗換え時間を10分と設定
 ※速達タイプの金沢～敦賀間の停車駅は、福井のみと想定

②敦賀延伸による北陸圏内の移動時間と運賃・料金

- ・敦賀開業による北陸三県相互間の直通化及び所要時間が短縮する。

(金沢～福井間が約 20 分、富山～福井間が 35 分)

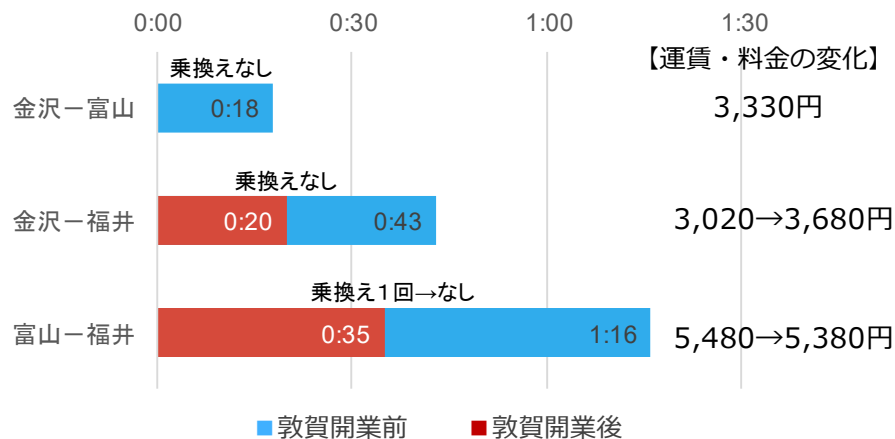


図 北陸圏内の移動時間と運賃・料金の変化

出典：【所要時間】北陸新幹線の敦賀延伸に伴う整備効果（概要）、北陸経済連合会（2010）

【運賃・料金】乗車料金は営業距離が同程度の区間を参照、金沢－福井間（76km）は富山－糸魚川間（73km）、富山－福井間（134.6km）は金沢－糸魚川間（131.6km）

③北陸3県内の年間旅客流動量

- ・金沢開業後、隣接県間での旅客流動量が増加した。
- ・特に、金沢⇄富山間では、定期利用者が開業前後で約 50 万人増加している。新幹線定期利用者が約 72 万人であることから、特急から新幹線への転換だけでなく、新幹線による新たな通勤・通学需要が広がったと想定される。

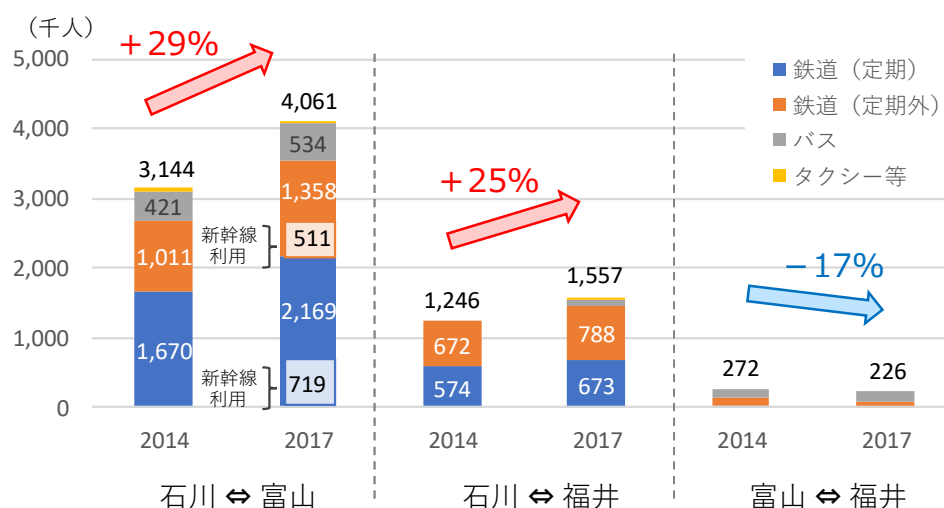


図 北陸3県内の年間旅客流動量（金沢開業前後の比較）

出典：幹線旅客流動調査、国土交通省

④県内空港（羽田便）の利用状況

- ・小松空港の羽田便利用者数は、開業1年目に約600人減少し、その後横ばい。
- ・のと里山空港の羽田便利用者数は、H25から微増している。

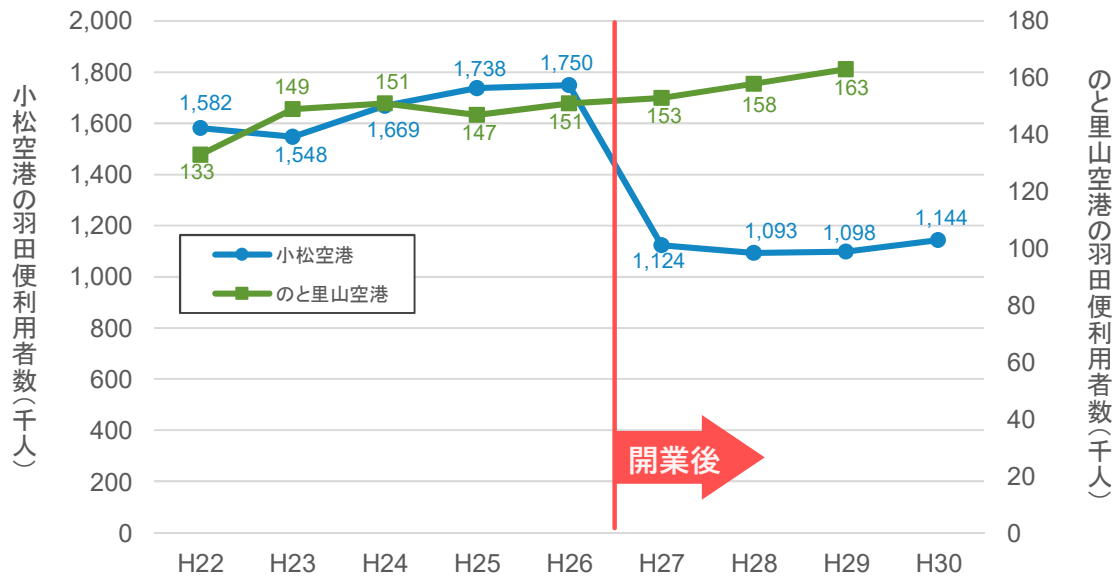


図 羽田便利用者数の推移

出典：小松空港ホームページ、のと里山空港ホームページ

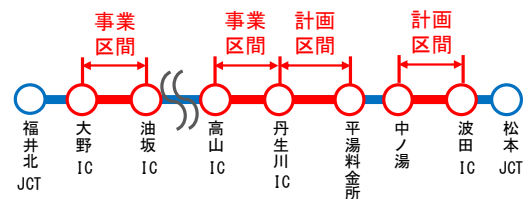
⑤北陸－中部間の道路網整備

- ・東海北陸自動車道の4車線化、中部縦貫自動車道の整備が進みつつある。

■北陸と中京間の道路網の整備状況



■中部縦貫自動車道の全線開通に向けた進捗



■東海北陸自動車道の4車線化に向けた進捗

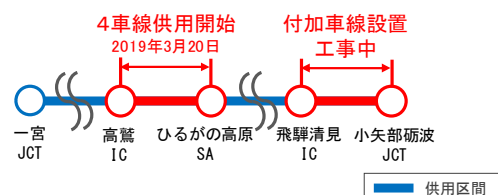


図 北陸～中部間の道路網整備

出典：【北陸－中京間道路網、中部縦貫自動車道】岐阜県 HP、【東海北陸自動車道】NEXCO 中日本

⑥令和元年度台風 19 号の被害

- ・令和元年 10 月 12 日から 13 日にかけて本州を縦断した台風 19 号により千曲川が氾濫し、北陸新幹線の長野～飯山間の線路、長野新幹線車両センター構内および新幹線車両が冠水した。
- ・長野～上越妙高間が不通となり、全線開通が 10 月 25 日と復旧に時間を要した。また、車両被害の影響で、復旧直後は通常運行の 8 割程度の暫定ダイヤとなった。



図 北陸新幹線の被害状況（左：本線の浸水、右：浸水した車両）

出典：JR 西日本ホームページ

■観光

①観光入込客

【集計対象：日本人 区域：金沢地域※】

※金沢地域：金沢市、白山市、かほく市、野々市市、津幡町、内灘町

- ・観光入り込み客数は、開業前後で約 200 万人増加し、その後横ばい。
- ・宿泊客比率は、開業前後であまり変化が見られない。

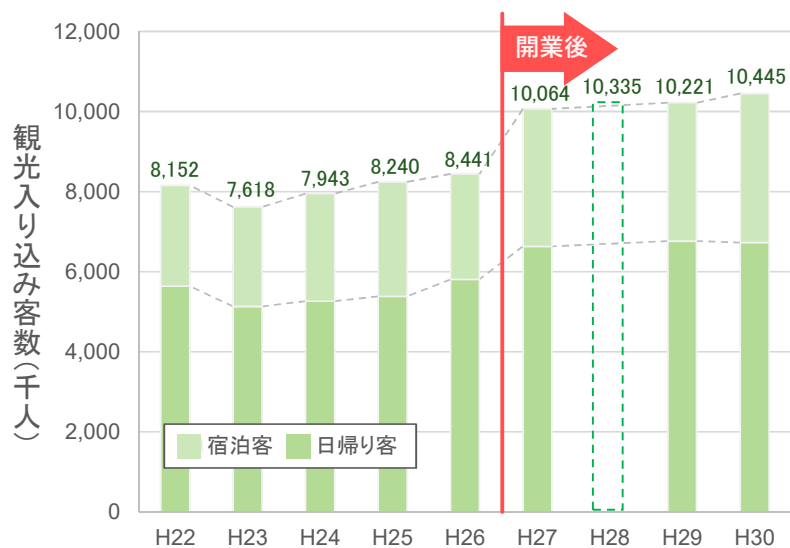


図 金沢地域への観光入込客数の推移

※H28 は観光入り込み客数の総数のみ公表
出典：統計からみた石川県の観光

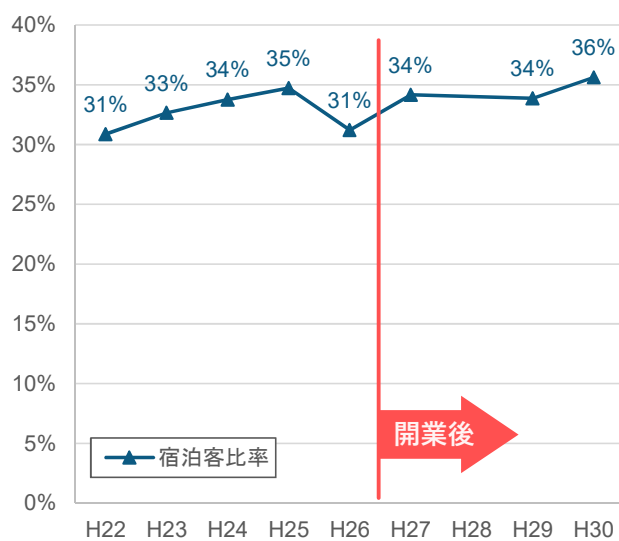


図 金沢地域の宿泊客比率の推移

出典：統計からみた石川県の観光

【集計対象：外国人 区域：各県】

- ・石川県への訪問者数は、全国的な傾向と同様に年々増加している。
- ・石川県での宿泊日数についても、全国平均より低い1.8泊である。

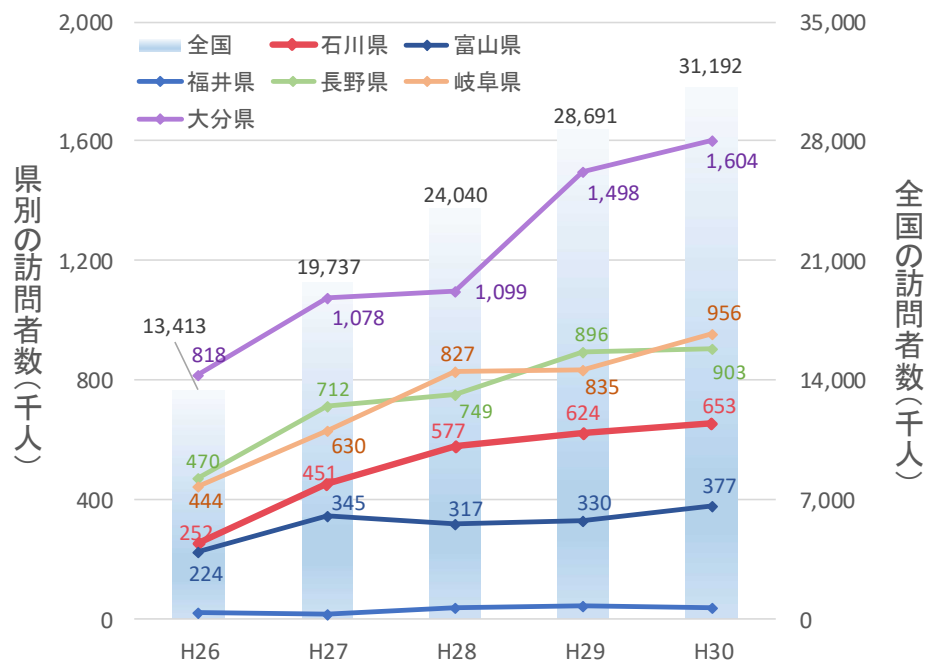


図 外国人観光客の訪問数の推移

出典：観光庁（訪日外国人消費動向調査）及び日本政府観光局（JNTO），2018
 ※県別訪問者数は、県別訪問率から訪日外客数を乗じて算出

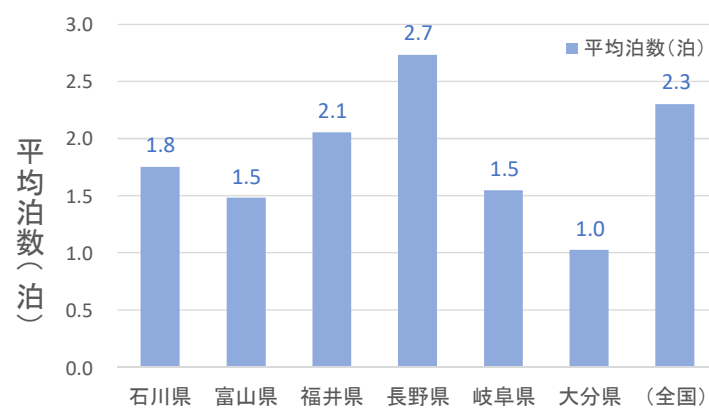


図 外国人観光客の平均宿泊日数

出典：観光庁（訪日外国人消費動向調査），2018
 ※全国平均は各県の平均宿泊日数の平均

②発地別観光入込客

【集計対象：日本人 区域：金沢地域】

- ・発地別の観光入り込み客数は、「首都圏」「その他」からの入り込みが開業前後で増加。
開業後も横ばいで推移している。

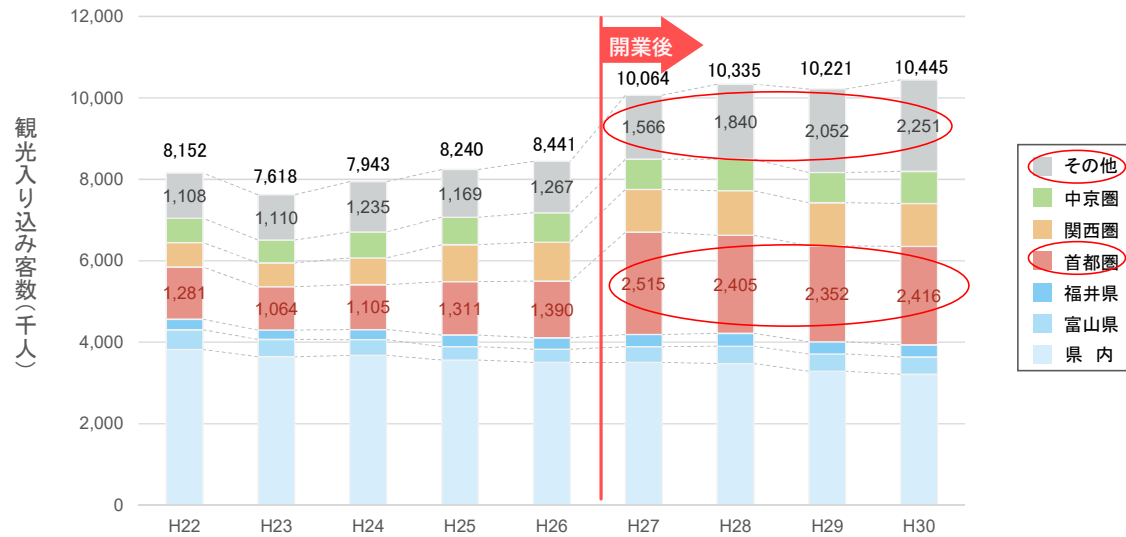


図 金沢地域への発地別観光入り込み客数の推移

出典：統計からみた石川県の観光

③市内観光地の利用状況

- ・兼六園、金沢城公園、金沢 21 世紀美術館の入場者数は、開業 1 年目に大幅に増加し、その後は横ばいで推移。
- ・ひがし茶屋休憩館、長町武家屋敷休憩館の利用者数は、開業 1 年目に大幅に増加したが、その後は減少している。

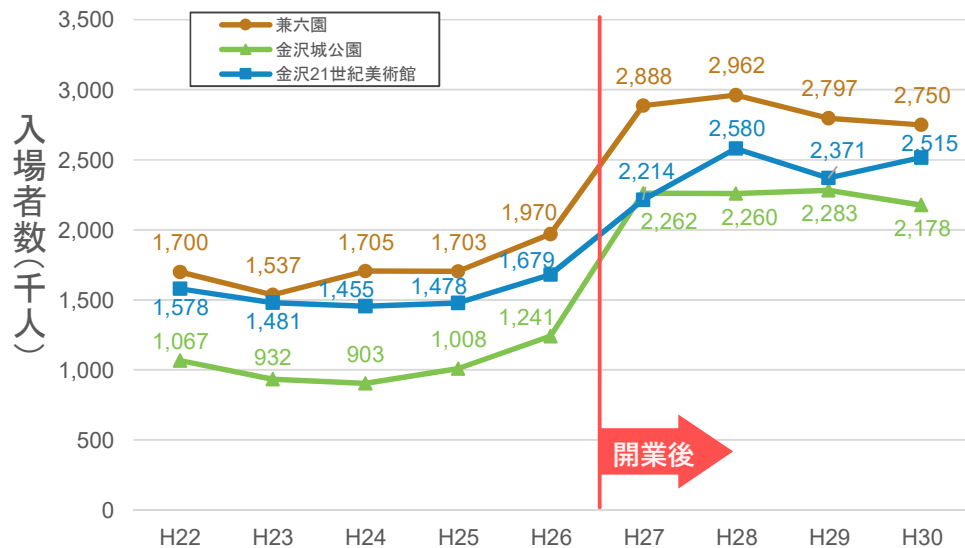


図 主な芸術・文化施設の入場者数の推移

出典：金沢市観光調査結果報告書

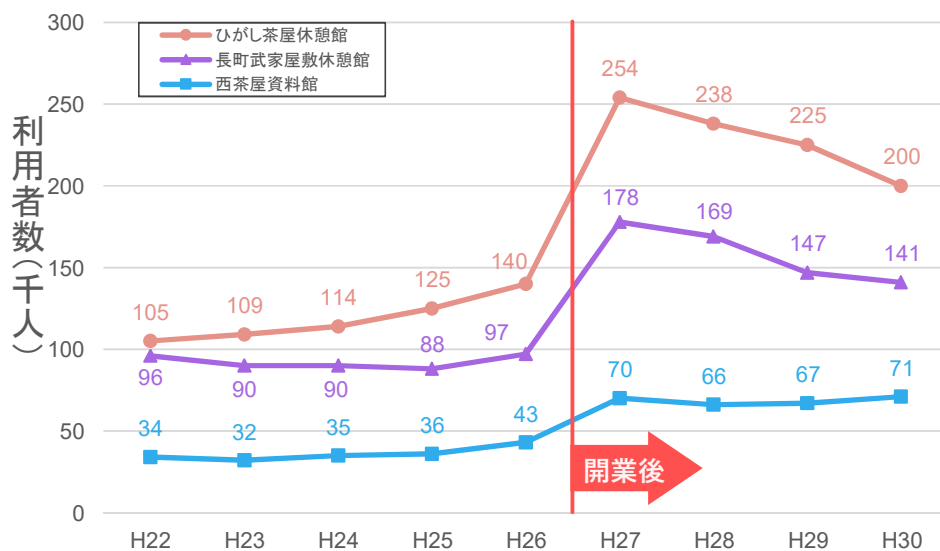


図 観光施設の利用者数の推移

出典：金沢市資料

■宿泊産業・都市開発

①ホテル・旅館等の客室

- ・ホテル営業及び簡易宿所営業は、新幹線金沢開業後の H27 以降、年々増加している。
- ・旅館営業は微減している。

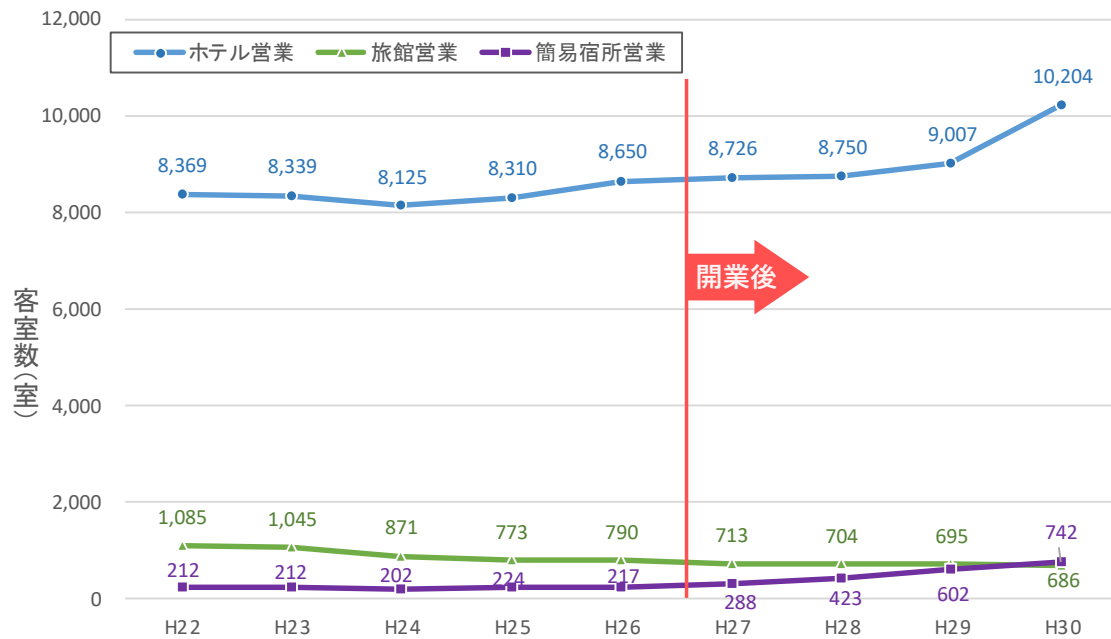


図 金沢市のホテル・旅館・簡易宿所の客室数の推移

出典：金沢市資料

②今後の金沢市内のホテル開発の進展

- ・北陸新幹線金沢開業年の 2015 年 12 月末から 2018 年 12 月末までの 3 年間で、客室数が約 13%増加。2020 年にかけては、5 年間で少なくとも約 37%増加となる見込み。
- ・客室数では、2015 年 12 月末に約 9,800 室で、2018 年 12 月末に約 11,100 室となり、2020 年には約 13,400 室まで増加する見込み。

表 金沢市内におけるホテル開発の動向（2019 年 4 月時点）

開業時期		名称など	客室数	場所
2019 年	1 月	三井ガーデンホテル金沢	158 室	上堤町
	3 月	ホテルインターゲート金沢	166 室	高岡町
	4 月	ユニゾインエクスプレス金沢駅前	392 室	堀川新町
	夏	ホテルトレンド金沢片町（仮称）	不明	片町
	10 月	ダイワロイヤルホテル D プレミアム金沢	177 室	広岡
	11 月	アゴーラ・金沢	200 室	片町
	秋	変なホテル石川金沢（仮称）	131 室	香林坊
	秋	ブランド未発表（ケイエルリース）	不明	広岡
	秋	御宿 野乃金沢（仮称）	307 室	下堤町
	秋	ホテルフォルツァ金沢（仮称）	約 200 室	安江町
	冬	東急ステイ金沢（仮称）	167 室	南町
2020 年	3 月	ファーストホテル広坂（仮称）	40 室	広坂
	6 月	ハイアットセントリック金沢・ハイアットハウス金沢	340 室	広岡
	夏	スーパーホテル	不明	本町
	未定	ダイワロイヤル（広岡）、T マークシティ（片町）	不明	
未定	未定	都ホテル建替、森トラスト、JR 西グループ などの計画	不明	
計			約 2,300 室 （不明除く）	

出典：金沢市資料

③2019 年以降の主なホテルの建設予定地

- ・金沢駅周辺だけでなく、片町周辺といったエリアにおいても増加している。

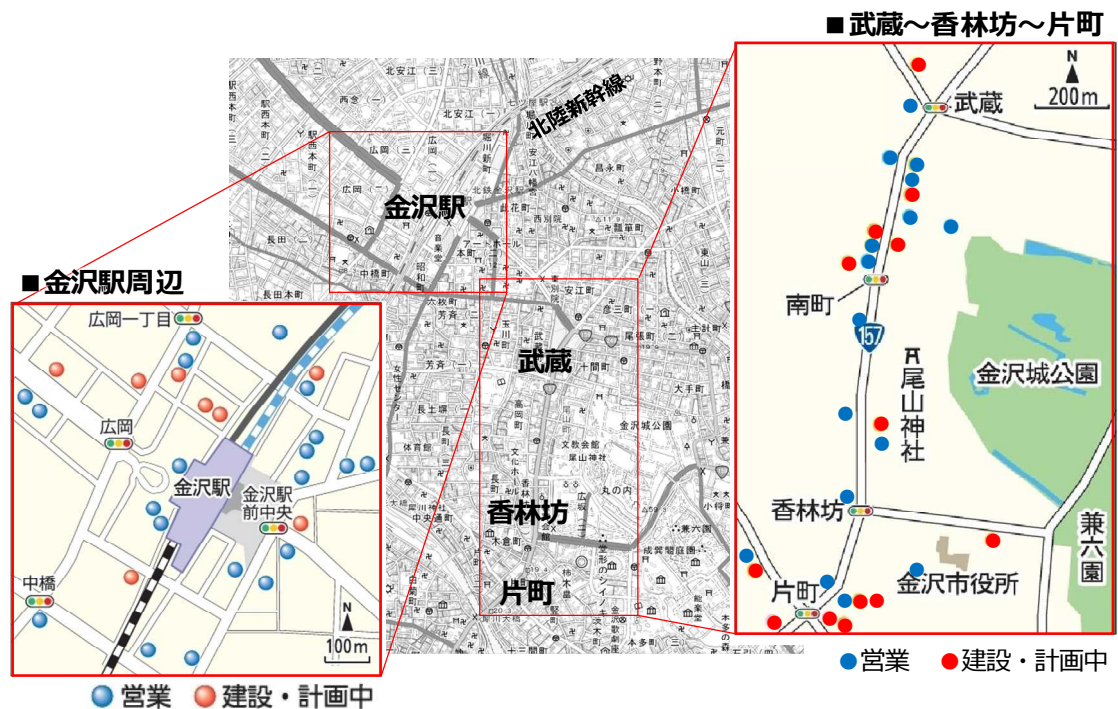


図 市内中心部のホテル建設予定地

出典：北國新聞記事から作成

④金沢市内の宿泊施設の稼働率

- ・新幹線開業後に都市ホテルは70%台、ビジネスホテルが60%前後を維持している。

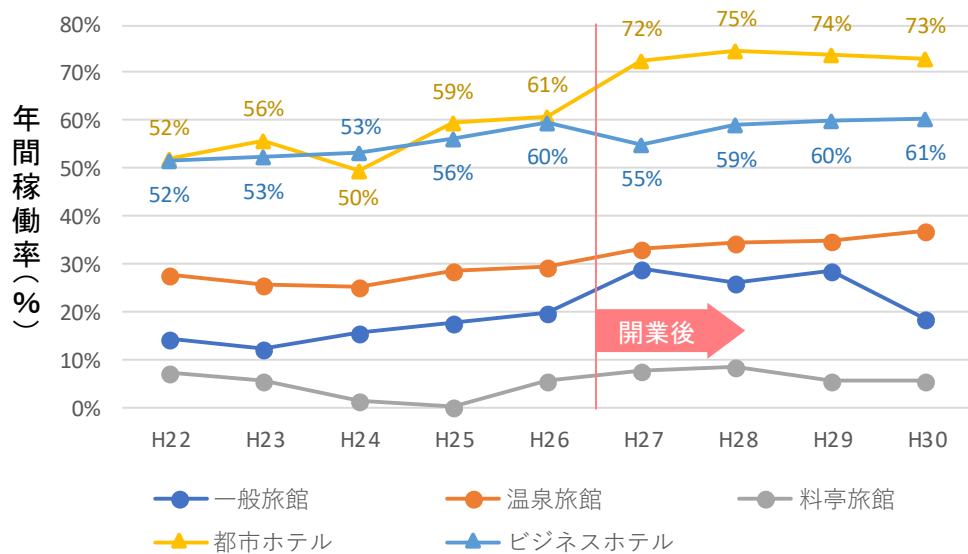


図 年間稼働率の推移

出典：金沢市観光調査結果報告書

⑤時間貸し駐車場の増加

- ・時間貸し駐車場（コインパーキング）はH21 から H28 に約 30%増加（57→73 ヲ所）増加。また、細街路沿いや住宅地での新設が増えている。

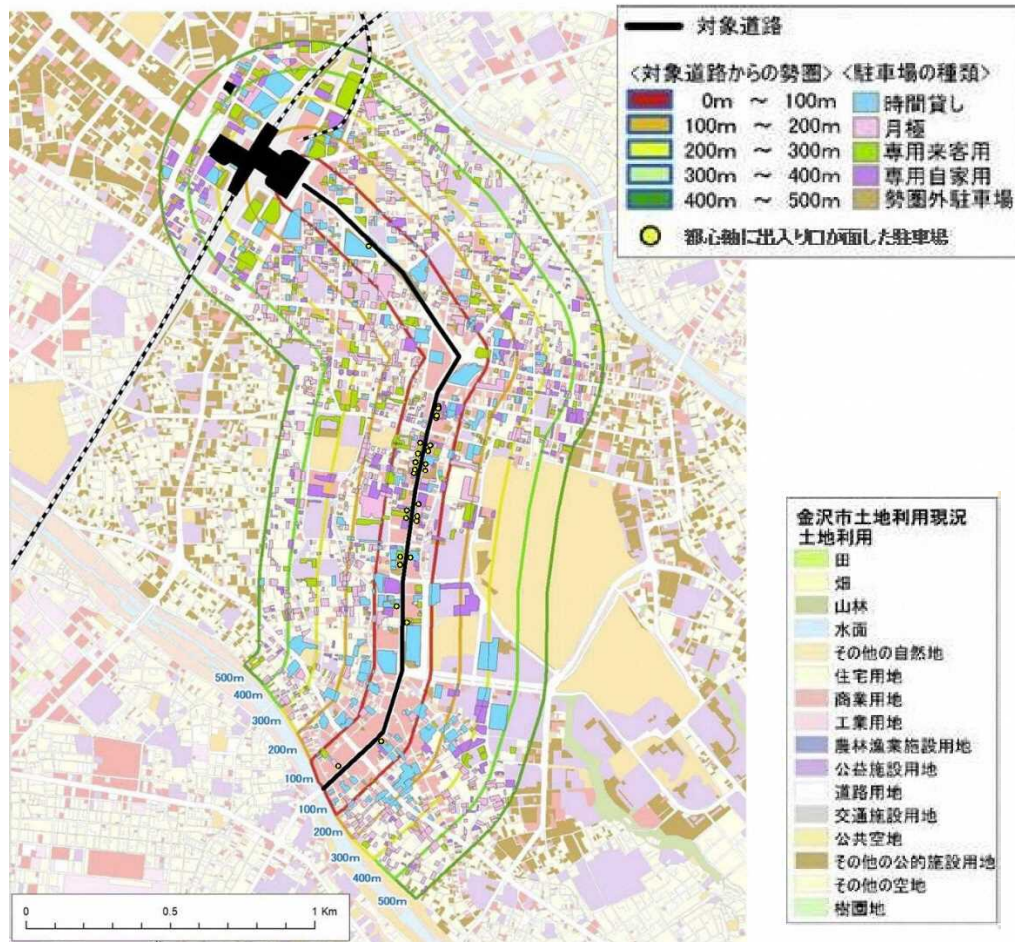


図 都心軸周辺の駐車場の状況（H21 から H26 の変化）

出典：金沢市駐車場整備に関する基本計画及び駐車場整備地区における駐車場整備計画（2018）

⑥有効求人倍率

- ・石川県における有効求人倍率は、毎年全国より高くなっており、新幹線開業後も引き続き高い数値で推移している。

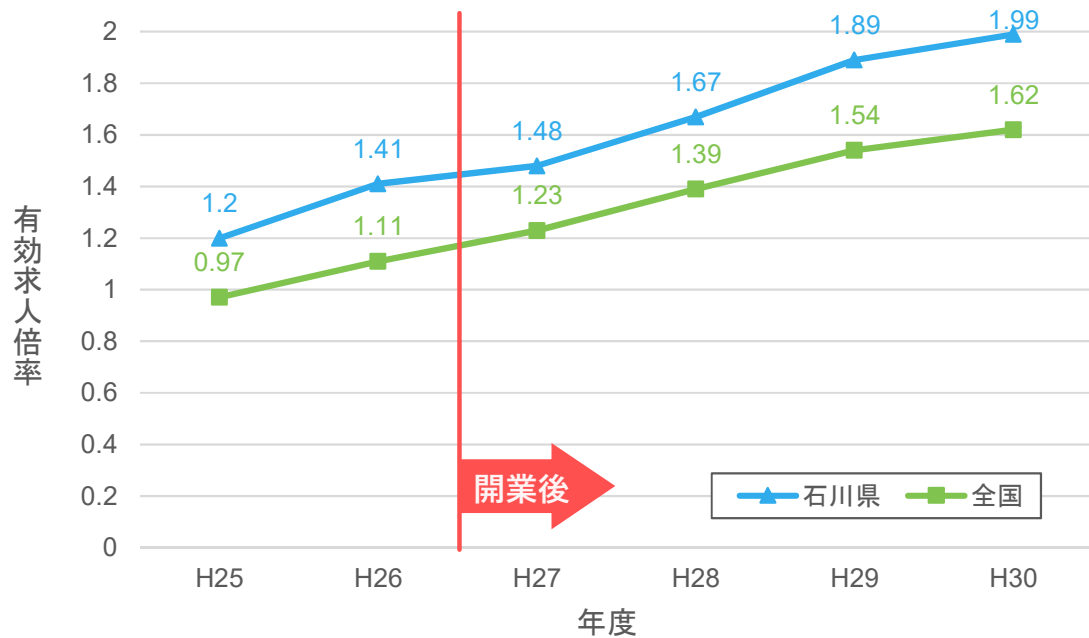


図 有効求人倍率の推移

出典：【全国】e-Stat－有効求人倍率(実数及び季節調整値)－
 【石川県】石川県統計書 労働及び賃金

■経済活動・MICE

①コンベンションの開催状況

- ・コンベンション開催件数は横ばいであるが、参加人数は開業 1 年目に大規模コンベンションの開催により、大幅に増加し、その後は減少している。

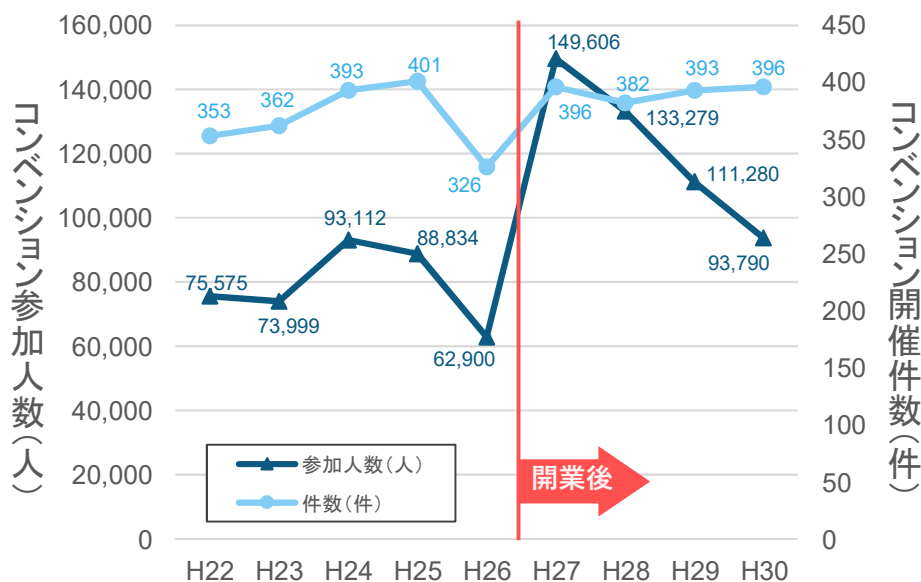


図 コンベンション開催件数と参加人数の推移（石川県全体）

出典：金沢市コンベンションビューローホームページ

②国際会議の開催状況

- ・国際会議においても、大規模な国際会議の開催により、参加人数が開業前後で大きく増加している。

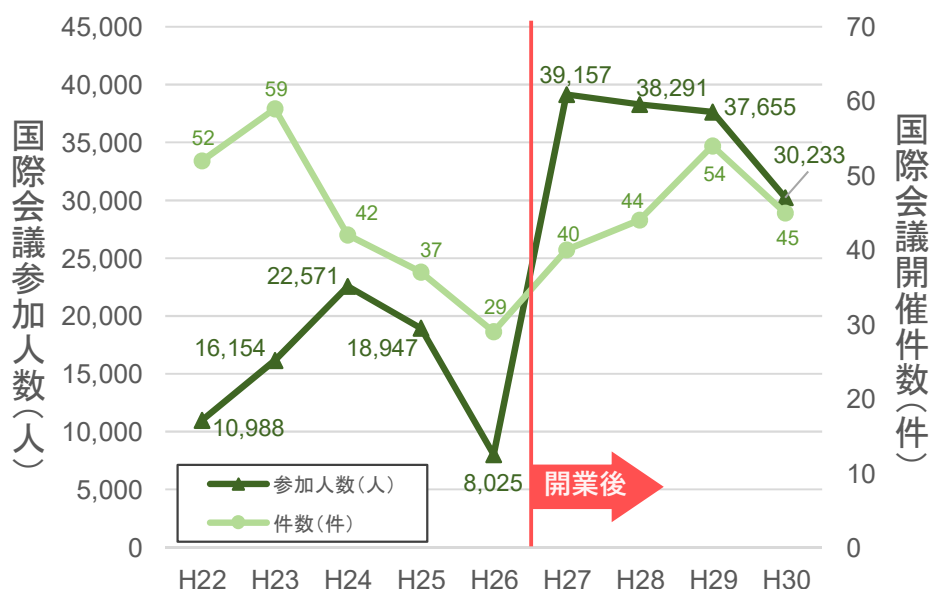


図 国際会議の開催件数と参加人数の推移（石川県全体）

出典：金沢市コンベンションビューローホームページ

■市民生活

①転入・転出状況（全体）

- ・金沢開業後も、転入者が転出者を上回る状況である。

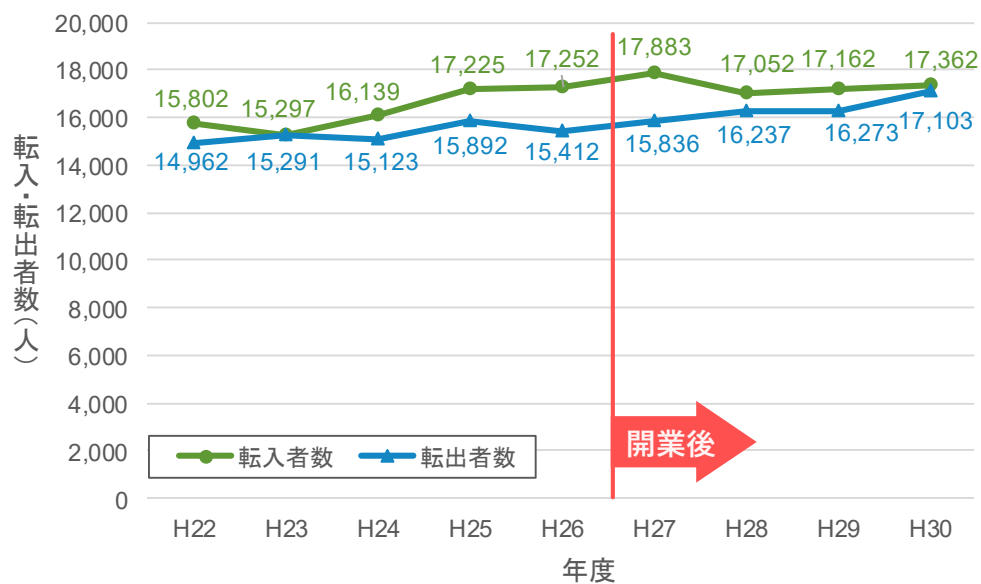


図 金沢市の転入・転出者数の推移

出典：金沢市統計書、平成 30 年度は金沢市人口推計

※転入者数は「他都道府県及び県内他市町からの転入者数」及び「入国者数」を合わせた数値であり、転出者数は「他都道府県及び県内他市町への転出者数」及び「出国者数」を合わせた数値である。

そのため、「社会矯正施設の入出者数」や「登録事由その他（住所設定・帰化・転出取消・職権回復等、職権消除・失踪宣告・帰化・国籍喪失等）の入出者数」を含む社会動態の数値とは異なる。

②転入・転出状況（地域別）

- ・関東から市内への転入者数と、市内から関東への転出者数は、新幹線開業後いずれも微増である。

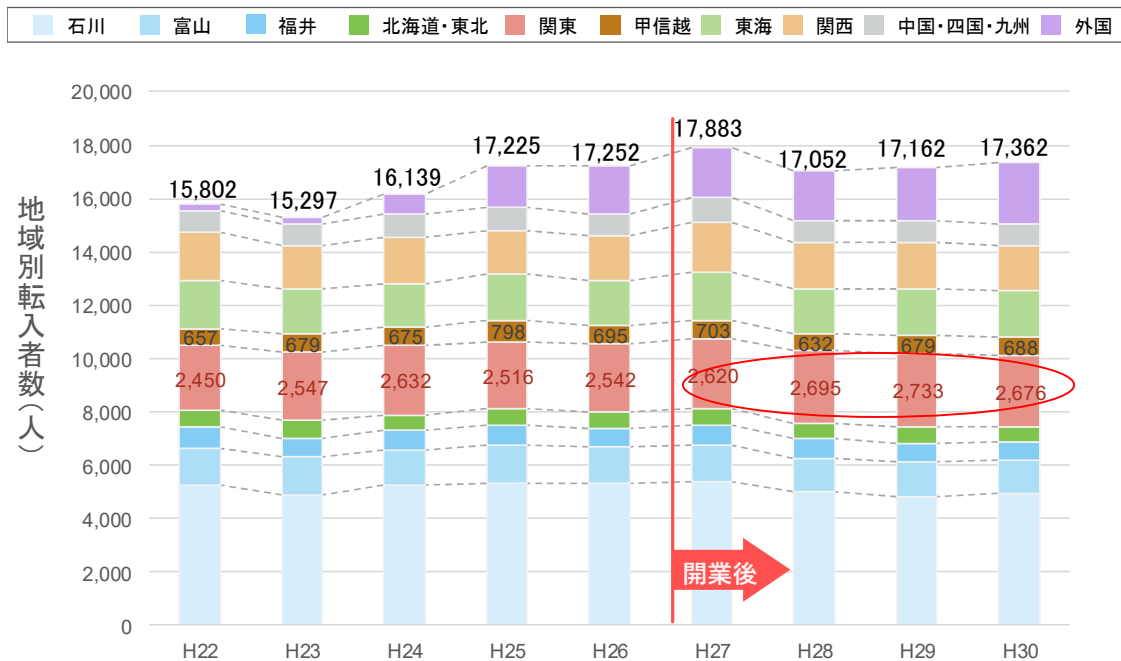


図 金沢市の地域別転入者数の推移

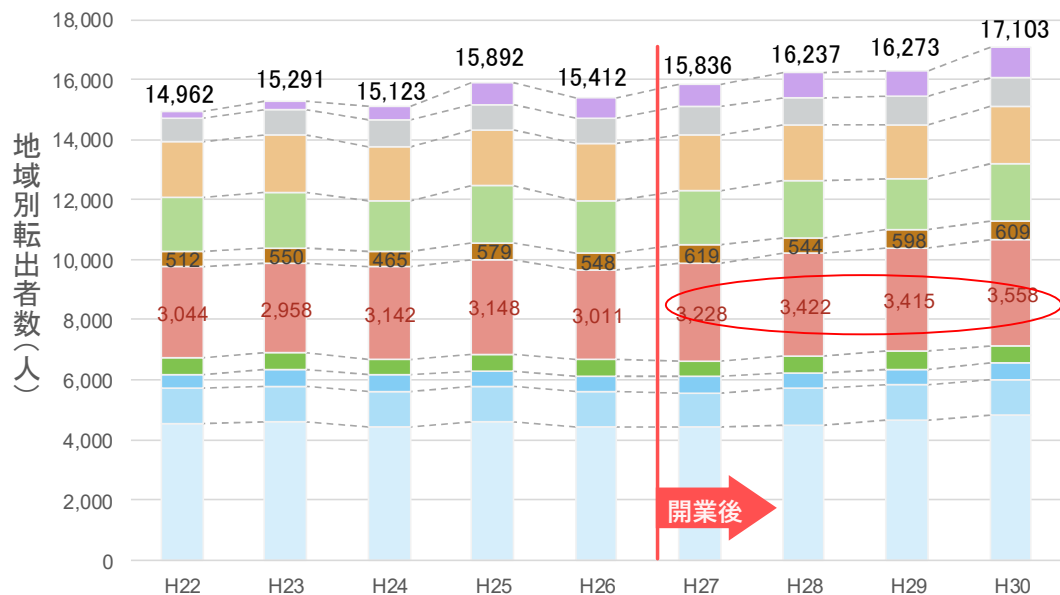


図 金沢市の地域別転出者数の推移

出典：金沢市統計書、平成30年度は金沢市人口動態調査

③金沢大学生の出身地及び卒業生就職先状況

- ・金沢大学入学者のうち関東出身の占める割合は、金沢開業後微増している。
- ・関東を就職先とする金沢大学卒業生（学士）も、金沢開業後その割合が増加している。

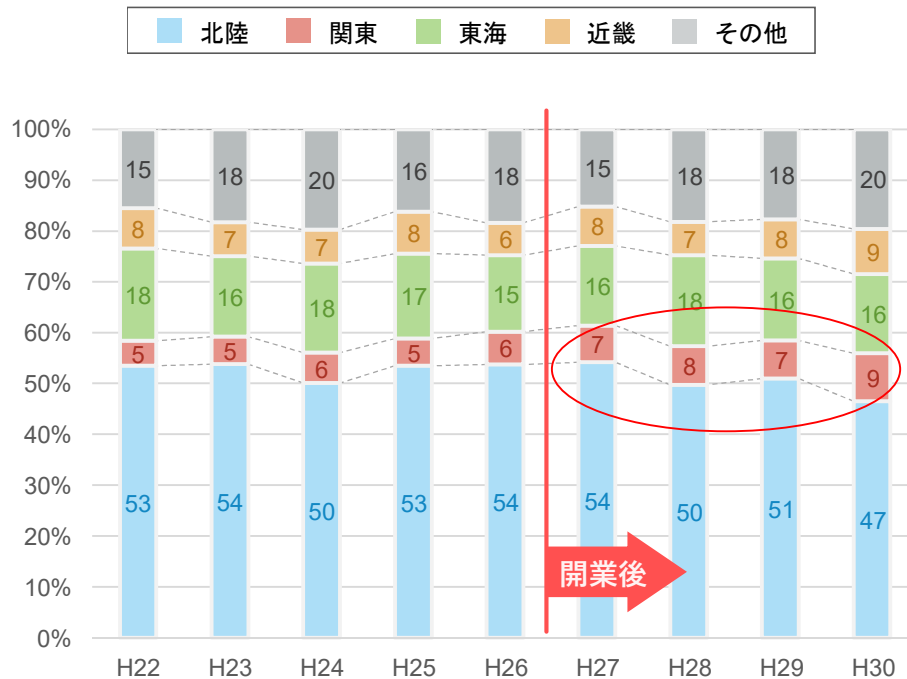


図 金沢大学入学者数の出身地域内訳の推移

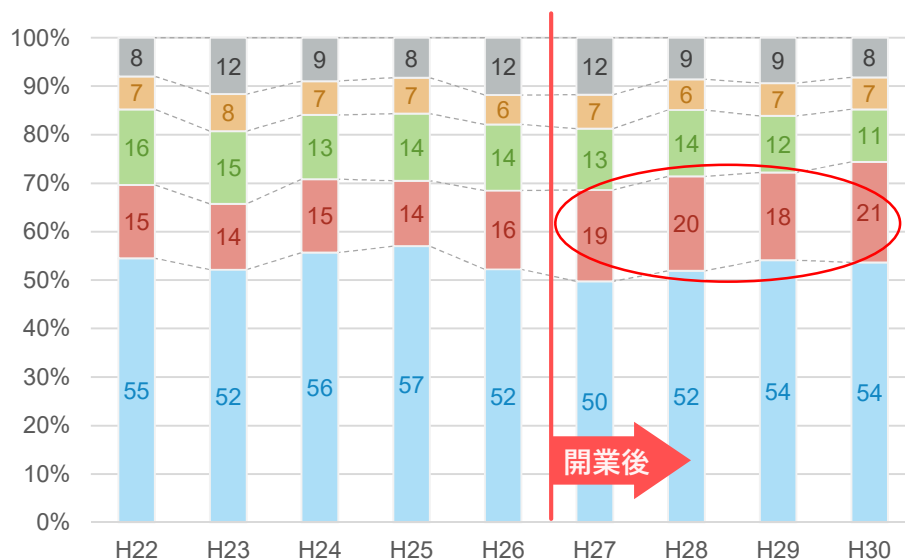


図 金沢大学卒業生の就職先内訳の推移

出典：金沢大学ホームページ

④新幹線開業に関する市民の声

- ・プラスの影響として、観光やビジネスの機会の拡大に関する声が聞かれた。
- ・マイナスの影響として、多くの観光客が訪れることで市民生活への影響が指摘された。

表 金沢開業による市民の声

	意見
プラスの影響	<ul style="list-style-type: none"> ・来街者に影響され、市民もまちなかをよく歩くようになった ・観光客の多い場所での売上げが好調（特に菓子類） ・支社が増えて本社からの来訪も増え、交流人口が増えている
マイナスの影響	<ul style="list-style-type: none"> ・ぼい捨てや食べ歩きなどの迷惑行為が増加している ・観光地周辺の混雑、交通混雑が見られるようになった ・地元客が気軽に外食できなくなった

出典：金沢市資料（新幹線開業の影響に関する市民団体代表者等ヒアリング（H29 実施））

⑤ぼい捨て等防止重点区域指導件数

- ・北陸新幹線開業に関わらず、喫煙・ぼい捨ての指導件数は年々増加していたが、H30 に約 500 件減少した。

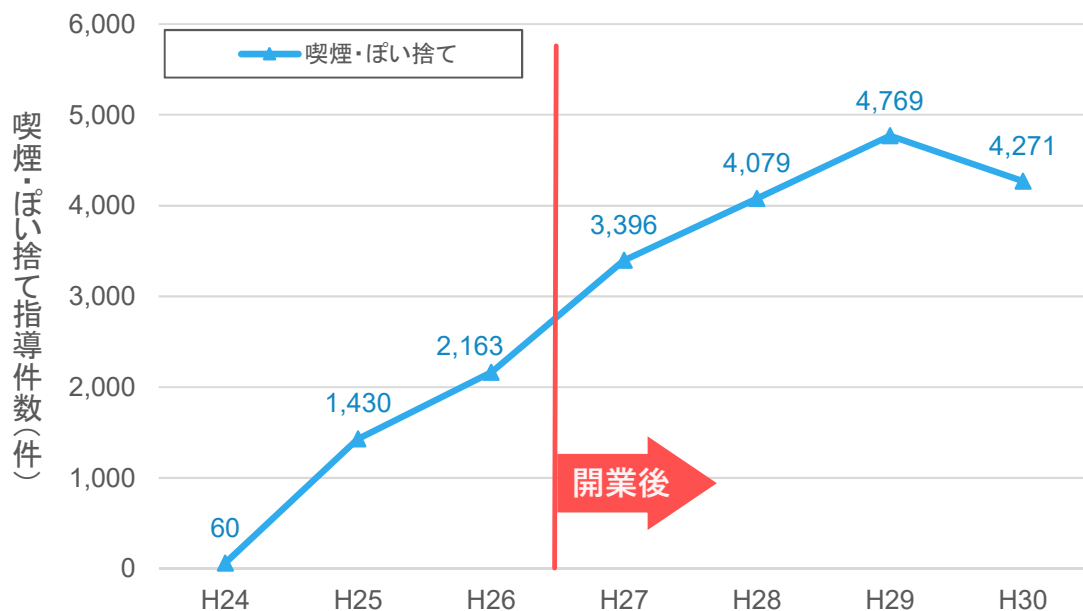


図 指導件数の推移

出典：金沢市資料

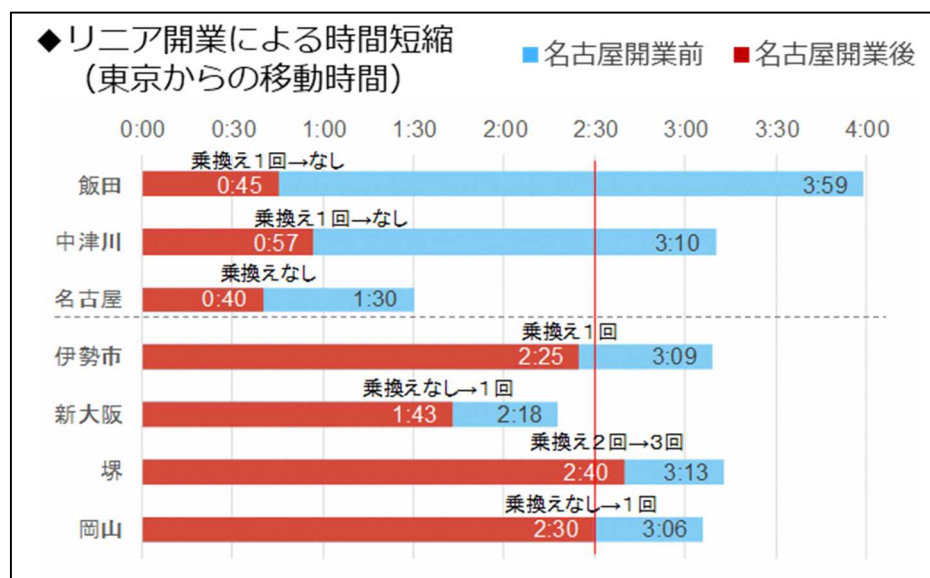
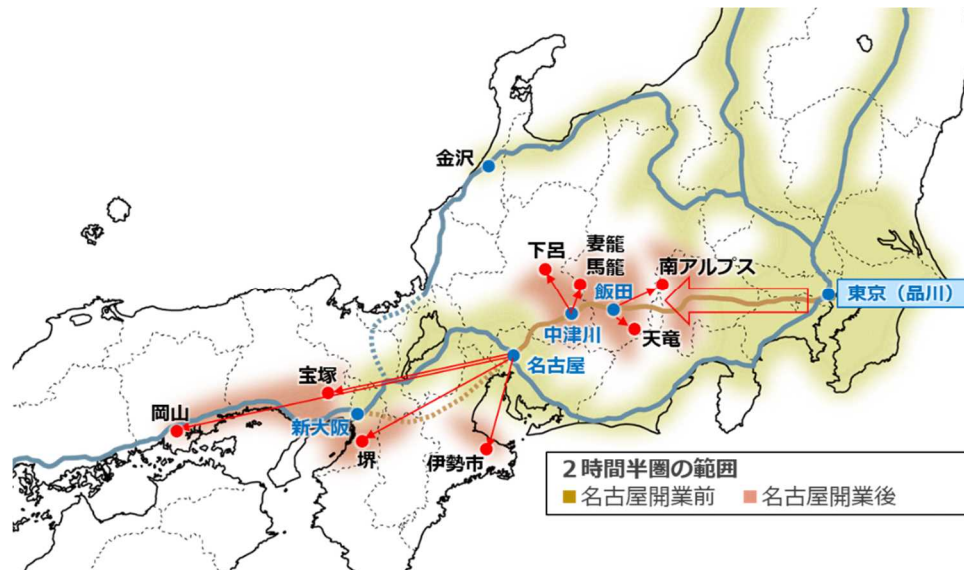
(2) リニア中央新幹線開業により考えられる影響

■広域交通

①名古屋開業による移動時間・乗換えの変化

- ・東京-名古屋間の大幅な時間短縮により、名古屋以西や南北に2時間半圏の都市が増加。
- ・飯田や中津川の周辺地域へのアクセスも向上するが、中核市などの主要都市はない。

〔リニア中央新幹線名古屋開業による時間短縮（東京発の場合）〕



出典：【リニア所要時間】長野県リニア活用基本構想、長野県（2014）

※その他の必要時間は時刻表を参照、リニア駅での乗換え時間を15分と設定

- ・リニア中央新幹線開業による、都市と地方にまたがる全く新しいビジネススタイル・ライフスタイルの誕生

国土交通省

- ・自然豊かな所で職住近接
- ・ワークライフバランスの実現
- ・仕事の生産性の向上



- 実証事業に参画したセールス・フォース・ドットコム社では、職住近接により、家族と過ごす時間や地域交流等の時間が、**1人月平均64時間増加**。
.....**ライフが充実**。
- さらに、職住近接や、落ち着いた仕事に没頭できる環境によって、**生産性が向上**(商談件数**20%増**、契約金額**31%増**)。

出典：スーパー・メガリージョン構想検討会 最終とりまとめ、国土交通省、2019

国土交通省

- 【都市と農村の融合した全く新しいリージョンの形成】

 リニア各駅から1時間[※]で移動可能な範囲

(※) 中間駅：自動車利用
 その他の駅：鉄道利用

	1時間圏	全国
人口(万人)	7,445	12,709
製造品出荷額(兆円)	188	305



出典：スーパー・メガリージョン構想検討会 最終とりまとめ、国土交通省、2019